

「 現代の国語 」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	国語	単位数	2単位
学 科	アグリフード科、グリーンライフ科・ライフキル科・フードプロデュース科 ミックスクラス	学年・組	2学年（全クラス）
使用教科書	東京書籍 新編「現代の国語」		
副教材	第一学習社「意味から学ぶ常用漢字」		

「現代の国語」 科目の概要と学習目標

言葉による見方・考え方を働きかせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

授業の進め方

*授業形態

通常授業：一斉授業 , 振り返り：グループ学習、端末学習、調べ物学習

*授業の際の心構え

1. 学習用具・学習端末はきちんと揃えて授業に参加しましょう。
2. 向上心を持って授業に集中しましょう。(説明中の私語・居眠りは厳禁)
3. 授業内容で疑問に感じたことがあれば、積極的に手を挙げて質問しましょう。

「言語文化」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・及び技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	定期考査 授業プリント 課題
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	定期考査 授業プリント 課題
学習に主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	授業態度 授業プリント 課題

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・読む こそそめスープ ・話す・聞く 気になるニュースについて話そう ・読む 水の東西 ・やってみよう …文章の要旨をまとめてみよう ・書く 集めた情報の内容を検討して意見文を書こう 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。 ・情報を整理し、内容や構成に注意して話す。 ・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。 ・要旨をまとめ、文章の要点を把握する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・読む 無彩の色 ・話す・聞く 情報を整理しながら話し合おう ・読む 鍋洗いの日々 ・ブックガイド 働くとは？ ・書く 憧れの職業について調べ、整理してまとめよう ・話す・聞く 発想を広げる方法を使って話し合おう ・書く 新聞記事を読んで意見文を書こう 	<ul style="list-style-type: none"> ・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。 ・話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。 ・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 ・読書を通じて将来の職業や働き方を考える。 ・調べたことを整理して、考えたことを分かりやすくまとめる。 ・発想を広げてアイディアを整理し、まとめる。 ・記事の読み取りを踏まえ、根拠を明確にして意見をまとめる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・読む 美しさの発見 ・書く 読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう ・読む 真の自立とは ・話す・聞く 資料を活用して発表しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。 ・助言をもとに推敲して、よりよい文章に仕上げる。 ・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 ・発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。

*成績：①主体的に取り組む態度…授業ワークシート・振り返りシート・イミカンなど

②思考・判断・表現 …定期考査の分野問題の得点・授業ワークシート・

創作作品・読書感想文など

③知識・技能 …定期考査の分野問題の得点

※定期考査による分野問題得点の比率は約「知識技能 7：思考判断表現 3」

※①～③の評価は①3：②3：③4

*提出：ワークシートは定期的に提出します。国語のファイルに整理しておきましょう。

教科	国語	単位数	3単位
学科	アグリフード科・グリーンライフ科・ライフスキル科・フードプロデュース科ミックスクラス	学年・組	1学年（全クラス）
使用教科書	東京書籍「新編言語文化」（言文701）		
副教材	第一学習社「意味から学ぶ常用漢字」		

「言語文化」科目の概要と学習目標

言語文化とは、我が国の長い歴史の中で作り出され、現代文化まで受け継がれてきた言葉や作品、また言葉による芸術など、文化的に価値の高いものをいいます。言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指します。
ここでは下記の3つを目標に取り組んでいきます。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等 主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができます。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになります。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

授業の進め方

1. 授業形態

通常授業：一斉授業、その他：グループ学習、調べ学習、体験学習

クラス分け：習熟度別（学期ごとに入れ替え）編成 ※1組以外で実施します。

*クラスによっては、学習支援の先生も配置しています。

*分からないうがあれば積極的に聞いて下さい。

2. 授業の際の心構え

(1) 授業中、授業に必要な物以外は机の上に出さないこと。

(2) 休み時間と授業中のけじめをつけること。

(3) 常に向上心を持って、取り組もう。

(4) お互いに、気持ちよく授業に取り組めるようにルールやマナーを守りましょう。

3. 授業の進め方

ノートの準備は必要ありません。ワークシート(プリント)で進めるので、A4 ファイルに綴って下さい。また提出物の締め切りについてはその都度、連絡するので聞き逃さないようにして下さい。

「言語文化」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
知識・及び技能	<p>① 言葉の特徴や使い方に関する事項…常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>② 我が国の言語文化に関する事項…古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。</p>	定期考査 授業プリント 課題プリント
思考・判断・表現	<p>① 書くこと…自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。</p> <p>② 読むこと…文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p>	定期考査 授業プリント 課題プリント
学習に主体的に取り組む態度	<p>① 積極的に、進んで、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>② 今までの学習を生かして、課題に取り組んでいる。</p> <p>③ その他(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動について、前向きに努力している)</p>	授業態度 授業プリント 課題/漢字学習イミカン

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・詠む 「さくらさくらさくら」 ・[言語]「花」といえば「桜」？ ・読む 古文に親しむ ・読む 「児のそら寝」 ●古文学習のしるべ 古文の言葉と仮名遣い 読む 古典芸能へのいざない [言語] 	<ul style="list-style-type: none"> ・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。[知技] ・現代の言語文化に息づいている古典の常識について興味を持つ。 ・それぞれの文章の、リズムや調子の違いを感じ取る。 ・歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。 ・古典から受け継がれてきた芸能について調べ、理解する。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 読む 「羅生門」[言語] [言語]元になった古典作品と読み比べよう 読む ●古文学習のしるべ 和歌 折々のうた [言語] 読む 柳あをめる【短歌】 ■短歌の読み方 詠む [言語] 短歌を作る 雪の深さを【俳句】 ■俳句の読み方 	<ul style="list-style-type: none"> ・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・古典を元にして作られた作品と、元の作品を読み比べ、理解を深める。 ・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。 ・自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書く。 ・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る

3 学 期	<p>■古文の窓4</p> <p>筒井筒 読む</p> <p>訓読の基本 〔言語〕漢字の読みと意味—漢和 辞典を活用しよう読む</p> <p>故事成語—三編 〔言語〕 読む</p> <p>史話—三編 〔言語〕『三国志』の英雄ポスターを作成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品に表れる平安貴族の文化を通して、作品の内容を捉え直す。 ・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係について理解する。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読み解に慣れ親しむ。 ・好きな人物を選び、調べて得た情報を的確に整理して、人物像が伝わるポスターを作る。

*成績について

- ①主体的に学習する態度 …授業ワークシート・振り返りシート・イミカンなど
- ②思考・判断・表現…定期考査の分野問題の得点・授業ワークシート・創作作品・読書感想文など
- ③知識・技能…定期考査の分野問題の得点

※定期考査による分野問題得点の比率は約「知識技能 7：思考判断表現 3」

※①～③の評価…①3：②3：③4

令和3年度 現代文 シラバス

科目	現代文	単位	2	学年	3
使用教科書	高等学校 新編現代文 A (第一学習社)				

学習の到達目標	<p>①国語総合で学んだ読解方法や鑑賞する力を活かし、現代文の読解力を養う。</p> <p>②さまざまな文章を的確に理解し、ものの見方、感じ方、考え方を深める。</p> <p>③文章を読む楽しさを味わい、近代以降の言語文化に触れるこの意義を理解する。</p>
---------	---

【評価】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に関する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとするとする。	自分の考えをまとめて深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取つたりする。	自分の考えをまとめて深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取つたり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身に付けていく。

【授業進行】

教室での座学を中心とし、必要に応じて図書館や視聴覚教室等を活用する。 筆記用具・学習用具は確実に持参する。 板書事項の書き取り、提出物、発問に対し積極的に意見発表をするなど、積極的かつ前向きな態度で学習に取り組むことが望ましい。
--

【学習計画】

学期	学習項目	学習の内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・評論 ・小説 ・詩 ・表現の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の読み方を習得する。 ・具体例と抽象的な記述との関係を理解する。 ・短編小説の読解のしかたを習得する。 ・小説世界を自己のものの見方や考え方につきつけて考える。 ・近現代詩の鑑賞のしかたを修得する。 ・感想文・意見文の書き方を理解し、実際に文章を書く。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・小説 ・表現の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の長編小説を読んで、読解力を養う。 ・優れた小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞法を習得する。 ・論理的要素を持つ文章を的確に読解する。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動 ・表現の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や課題に応じてさまざまな情報を収集し活用する方法を習得する。 ・レポートの書き方と発表のしかたを理解する。

【評価】

各学期の成績は、テスト 7割 + 提出物・平常点 2割 + 漢字課題/読書感想文など 1割

令和5年度	単位数	2 単位
国語科 [国語表現] シラバス [3年A S選択科目]	教科書	教育出版 「国語表現」

I 講座のねらい（目標）

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」をバランスよく取り入れ、適切に表現する力を育成する。伝え合う力を高めるための、実際的なコミュニケーション学習を中心に、高等学校での言語学習を支える基礎力を養う。
- ・思考力を伸ばし言語感覚を磨き、すすんで表現する態度を身につけ、社会性を高める。

II 授業の内容と学習法

- ・書き取り・聞き取った内容をメモにまとめる・要約など、最も基本的な言語能力の確認。
- ・発音・発声から、スピーチ、プレゼンテーション、その場に応じた会話・発言や発表など、実践的な「話すこと・聞くこと」に関する言語表現の訓練と学習。
- ・コラム、小論文やレポート、自分史、手紙など、実践的な「書くこと」に関連する言語表現の訓練と学習。
- ・ことば遊びや川柳・広告コピーなど、身近な題材から広がる言語表現の訓練と学習。
- ・会議、面接など、具体的な場を想定した適切な言語表現の訓練と学習。
- ・情報を入手し、適切に使いこなし、活かす方法の学習と訓練。
- ・日本語の基礎となる、さまざまな事項(漢字・敬語・構文など)と約束ごと、表現をよりよいものにするための工夫、自分の個性をふんだんに表現のあり方など、言語表現の方法・能力・知識に関する学習。

III 評価の視点・考查について

- ・評価は、提出物および出席状況や授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、小テスト、授業における積極的発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行う。
- ・小テストは、学習内容に関連したものを作成する予定である。小テストの得点は定期考査の結果に加算する。
- ・グループ学習による発表学習については、担当教員の評価のほか、生徒相互による評価も行い、担当教員が実際の評価を決める際の資料として活用する。
- ・各学習のまとめ段階では、自己評価や相互評価も活用する予定である。
- ・なお、年間授業時間数の1/3以上を欠席すると、単位を認定しないので注意すること。

評価の観点及び内容	評価方法	
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に対する関心を深め、国語を尊重し、向上を図り、すすんで表現するとともに、伝え合おうとしているか。 ・課題に積極的に取り組み、また、人の発言をよく聞くとともに、自分の考えを発言しようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席状況 ・取り組み態度 ・発言の意欲とその内容 ・ノート点検 ・自己評価と相互評価
話す・聞く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に「話すこと・聞くこと」の学習に取り組んでいるか。 ・自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて効果的に話したり的確に聞き取ったりできたか。 ・「スピーチ」「プレゼンテーション」といった活動に参加し、決められた役割をこなして成果をあげることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み態度 ・定期考查 ・発言の仕方や内容 ・レポート ・音読や朗読など ・自己評価と相互評価
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に「書くこと」の学習に取り組んでいるか。 ・自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書くことができるか。 ・「コラム」「小論文」「レポート」「自分史」「手紙」などといった課題を完成できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み態度 ・定期考查 ・ノート点検 ・作業プリント ・レポート ・発表方法や資料の表現方法 ・自己評価と相互評価
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に「読むこと」の学習に取り組んでいるか。 ・文章を読むことによって、より適切な表現をするために、自分の考えをまとめたり深めたりすることができるか。 ・文章サンプル集などを通じて、実際に読むことを通じて、表現力を高めることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查 ・小テスト ・音読や発言 ・ノート点検 ・自己評価と相互評価
知識	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけることができるか。 ・特に、漢字や語句に対する理解を広げることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考查 ・小テスト ・ノート点検 ・自己評価と相互評価

「 地理A 」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	地理A	単位数	2	学科	全学科	学年・組	3年
使用教科書	「高等学校地理 A」(第一学習社) 「標準高等地図—地図で読む現代社会」(帝国書院)				副教材	「地理Aノート」 (第一学習社)	

「地理」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

- ①地図の読み図などを通して地図に親しみ、地図に関する基本的な知識を身に付ける。
- ②世界の交通の発達について理解するとともに、過去と現在の比較を通して世界の人々の交流や日常の生活がどう変化したかを考える。
- ③世界中に分布する気候についての知識を身に付けるとともに、気候と世界の人々の生活・文化との関連に着目する。
- ④様々な国的生活・文化・経済・工業・農業・宗教など、自国と比較しながら理解する。
- ⑤様々な問題をかかえる地球の様子を理解し、これからの課題について考察する。

授業の進め方

- * 授業形態：①一斉授業、ペア・グループ学習
②講義、調べ学習、話し合い活動、発表

* 授業の心構え：世界や日本の自然・文化・生活の変化について、自らの問題としてと考えること

評価について

評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	地理の諸課題に興味・関心を持ち、その原因・解決方法について学習する姿勢がある。	授業態度、プリント
思考・判断	地理の諸課題について、学習内容や資料から、考察したり、公正に判断したりしている	プリント、発表、定期考査
技能・表現	地理の諸課題について、適切に資料を選択し、レポートを作成したり、発表したりすること	プリント、発表、定期考査
知識・理解	地理の諸課題について、問題の所在を理解し、解決方法を考える知識がある	プリント、定期考査
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	月	時	単元名	学習内容	学習のねらい
一 学 期	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 月	30	・旅からとらえる 現代世界	・地球上の位置と国家 ・グローバル化が進む 世界	・地図の読図などを通して地図に親しむとともに、地図に関する基本的な知識を身に付ける。 ・世界の交通の発達について理解するとともに、過去と現在の比較を通して世界の人々の交流や日常生活がどう変化したかを考える。
			・世界の自然環境 と文化	・人々の生活と地形 ・人々の生活と気候 ・人々の生活と産業	・世界中に分布する気候についての知識を身に付けるとともに、気候と世界の人々の生活・文化との関連に着目する。
二 学 期	9 ～ 12 月	32	・世界の諸地域の 生活・文化	・世界の諸地域の生 活・文化	・様々な国の生活・文化・経済・工業・農業・宗教など、自国と比較しながら理解する。
三 学 期	1 ・ 2 月	8	・地球規模で広が る課題 ・身近な地域の課 題	・問題をかかえた地球 ・各地でおこる地球的 課題 ・課題への国際協力と 日本の役割 ・日本の自然環境	・様々な問題をかかえる地球の様子を 理解し、これから課題について考 察する。 ・日本の自然環境と防災について理解 する。

備考

*学習態度、理解度を確認するために、プリント・ノート毎に確認を行う

「政治経済」シラバス

科目名	歴史総合	単位数	2単位
学科	アグリフード科 フードプロデュース科	学年	2学年ATクラス
使用教科書	高等学校政治経済 (第一学習社)	副教材	政治・経済ノート

「政治経済」とはこんな科目です（科目の概要と到達目標）

社会の在り方についての見方・考え方を働きかせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)社会の在り方に関する現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2)国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- (3)よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、國民主権を担う公民として、自國を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

「政治経済」の特色ある学習方法

「政治経済の評価」

a.知識・技能

社会の在り方に関する現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。

b.思考・判断・表現

国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。

c. 主体的に学習に取り組む態度

よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比重	40	30	30

「歴史総合」シラバス

担当 國吉 長輝

科目名	歴史総合	単位数	2単位
学科	全学科	学年	2学年
使用教科書	高等学校「新歴史総合」	副教材	改訂版日本史Aノート

「歴史総合」とはこんな科目です（科目的概要と到達目標）

日本を含めた世界各国の近現代史を学ぶことを通して、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指している科目です。

歴史総合の特色ある学習方法

単元を貫く問い合わせや毎時間の問い合わせ自分自身またはグループ内で考え、共有することを通して、人類の歴史と課題を深く考えます。端末等を活用した合意形成の授業を行います。

「歴史総合の評価」

- ① 近現代の歴史の変化に関する諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 近現代の歴史の変化に関する事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 近現代の歴史の変化に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比重	40	30	30

令和5年度「日本史A」シラバス

単位数：2単位 学年：3学年（選択科目）

1、学習の目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2、授業の進め方

- ① 近現代史を中心とする日本の歴史を、世界の歴史と関連付けながら理解します。
- ② 視聴教材を可能な限り取り入れ、生徒の理解を促進させます。
- ③ 歴史区分ごとに、歴史に大きな影響を与えた人物を取り上げます。

3、学習する上での留意点

- ① 基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成します。細かな事象や高度な事項・事柄には深入りしませんが、面白い歴史的事柄は時々取り入れ、皆さんのが楽しく学習するように工夫いたします。
- ② 「日本史の概略」に関しては「日本史A」の内容を参考にします。
- ③ 各時代における世界の中に日本を位置付けて学習します。
- ④ 歴史的事項、事柄の理解促進のため、視聴覚機器（P C・V T Rなど）を活用します。

4、評価の観点・方法について

評価の観点	内 容	評価方法
关心・意欲・態度	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題
思考・判断	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだし、我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を、世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・定期考查
技能・表現	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・定期考查
知識・理解	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し、その知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・定期考查

5、学習計画

学 期	学 習 項 目	学 習 内 容
1 学 期	第1部 私たちの時代と歴史 第2部 近現代の日本と世界 第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 ①近代への胎動 ②開国と幕末の動乱 ③近代国家の形成 ④国際関係の推移と近代産業の発展	・江戸幕府の崩壊、明治政府の成立、立憲政治の確立という明治維新の大きな流れを、おもに政治的な観点から理解する。 ・条約改正、日清・日露戦争前後の対外関係の変化といった国際関係の推移を理解し、国内における政党政治の展開を、大きな流れとして理解する。
2 学 期	第2章 両大戦をめぐる国際情勢 ①第一次世界大戦と日本 ②第二次世界大戦と日本	・日本における産業革命の進行とそれに伴う社会や国民生活の変化について理解する。 ・2度の世界大戦がなぜおこり、どのような結果・影響をもたらしたのかを理解する。 ・日本の国内政治の動向や、国際社会における日本の行動は、世界史の流れと密接な関係があることを理解させる。
3 学 期	第3章 現代の日本と世界 ①日本の再出発 ②独立後の政治と経済の発展 ③現代の日本と世界	・終戦後、連合国による占領を受けた日本がどのように復興を果たしていくのか、世界情勢とのかかわりから理解させる。 ・経済大国となった日本の課題と、国際社会に果たすべき役割について理解させ、さらに、そのなかで、個人として果たすべき役割についても考える。

6、教科書、副教材

【教科書】 : 高等学校 改訂版 日本史A（第一学習社）

【準拠ノート】: 改訂版 日本史A ノート（第一学習社）

【資料集】 : プロムナード日本史（浜島書店）

令和4年度 年間指導計画	学校名 教科名	八重山農林高校 公民科	学科・コース名 科目名	全学科 公共	クラス 教科書名（会社名）	1～4組 高等学校 公共（教科出版）	単位 2 学期	1 単位 事項	小単元毎のワークシート記載内容を評価する		
公民科の目標	柱書	社会的な見方・考え方を働きかせ。現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民主としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。									
	知識及び技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などの関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。									
	思考力、判断力、表現力等	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことの議論する力を養う。									
	学びに向かう力、人間性等	よりより社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。人間としての在り方生き方にについての自覚や、国民主権を担う公民主として、自國を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国民が協力し合うことの大切さについての貢献などを探る。									
公民科の目標	柱書	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働きかせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民主としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。									
	知識及び技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的の主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。									
	思考力、判断力、表現力等	現実社会の諸課題の解決に向けた、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことの議論する力を養う。									
	学びに向かう力、人間性等	よりより社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方にについての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民主として、自國を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国民が協力し合うことの大切さについての貢献などを探る。									
評議の表記について											
評議改定（指針）による評議は、当時行なうべきであり、ここでは表記しない。（参考指針には表記する） 評議に用いる（危険に陥る）評議は、そのうち述べべらすとして取扱ふとして表記する。											
学年	月	曜日	年級	単元名	単元① (単元を詳しく聞く)	小単元名と考査の位置づけ	MQ (本時の問い)	評議の要点 加 点 馬 塗 想	時数	単元（内容のまとめ）ごとの評議規準（自評研の生徒の役）	
一学期	4			卷頭特集 公共的な空間をつくる私たち	1. 大人ってどんな人？	私たちが今さしかかっている青春期は、人生においてどのようなような意味を持つっているのだろうか。	1. 青春期の特徴 2. 大人にすることの意味 3. ライフサイクルと発達課題	① ○ ○	3	(物)青春期は自己由立と自律をはかる重要な時期であることを理解できている。 (物)自己形成の課題について考察できている。 (物)自ら成長させる人間としての在り方生き方はどのようなものか主体的に追求できている。	
	5				2. お互いを理解し尊重するために	誰かな人生はどうどのように生きることだろうか、人生にとって大切なものは何だろうか。	1. 古代ギリシャの知恵 2. 古代ギリシャの思想 3. 教義の教義 4. キリストの教え 5. イスラームの教え	① ○ ○ ○	3	(物)歴史文化一般、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていること理解できている。 (物)古代ギリシャの思想家は人生において大切にすることは何かと考えたのだろう？ 2. 古代ギリシャの社會の変遷 3. 教義の教義 4. キリストの教え 5. イスラームの教え 6. 日本の伝統的な生活文化 7. 仏教の教義 8. 道徳の教義 9. 西洋文化の内容 10. 伝統文化と現代の日本文化 【1学期中間考査】	(物)歴史文化一般、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていること理解できている。 (物)古代ギリシャの思想家は人生において大切にすることは何かと考えたのだろう？ (物)古代ギリシャの社會の変遷 (物)教義の教義 (物)キリストの教え (物)イスラームの教え (物)日本の伝統的な生活文化 (物)仏教の教義 (物)道徳の教義 (物)西洋文化の内容 (物)伝統文化と現代の日本文化 影響を及ぼしているのだろう？
	5				3. 誰もが生きやすい社会へ	さまざまな背景を持つ多様な人々が生きやすい社会をつくるためには、どうしたらいいだろうか。	1. 社会参加と履職意識 2. 価値観と行動のための社会の実現 3. 公民的行動の重要性 4. 多文化共生の実現 5. 「共生社会」の実現のために	① ○ ○ ○	5	(物)競争は人生においてどのような意味をもつたのだろう？ 2. 「シェンゲン」と何が違う？ 3. 「同婚権」を認めるべきだろ？ 4. 日本で生活する外国人が働いていることはなんだ？ 5. 「共生社会」を実現するためには、私ができることは何なんだろうか？ 【1学期期末考査】	(物)競争は人生においてどのような意味をもつたのだろう？ (物)「シェンゲン」と何が違う？ (物)「同婚権」を認めるべきだろ？ (物)日本で生活する外国人が働いていることはなんだ？ (物)「共生社会」を実現するためには、私ができることは何なんだろうか？
	6			A公共の基 第1章 公共的な空間における 人間としての在り方生き方	1. 西洋近代の思想	西洋近代の思想は私たちの社会にどのような影響を与えたのだろうか。	1. 科学的・論理的な考え方 2. 民主社会の構築 3. 他者とともに生きる	① ○ ○ ○	3	(物)近世・近代・現代の世界の思想家の思想が理解できている。 (物)科学的・論理的な考え方 (物)民主社会の構築 (物)他者とともに生きる	(物)近世・近代・現代の世界の思想家の思想が理解できている。 (物)科学的・論理的な考え方 (物)民主社会の構築 (物)他者とともに生きる
	6				2. 現代の課題と倫理	現代的で地政課題の課題は私たちの身近な生活をどのように形びついているのだろうか。	1. 地理環境をめぐる問題 2. 環境・エネルギー問題 3. 住まいづくり問題 4. 健康をめぐる問題	① ○ ○ ○	4	1. 地理環境を解決するのに私たちにできることはなんだろう？ 2. 環境・エネルギー問題は私たちの生活にどのようにかかわるのだろう？ 3. 現代後発国は人のあり方についてどのような影響を及ぼすのだろう？ 【1学期期末考査】	(物)地理環境問題と資源、エネルギー問題、生命科学や情報技術の流れなどの多面性について理解できている。 (物)自分の立場に立つて他人の立場に立つて在り方生き方を考察するための視点、判断の手掛かりを考察できている。 (物)地理・軽油の手掛かりとなる考え方を理解していこうとする意欲と行動をもつことができる。
7				第2章 公共的な空間における 基本原理	1. 民主社会の原理	民主政治を実現するために大切なことは何だろうか。	1. 民主政治と基本的人権 2. 普及分立と清の精神 3. 他者と社会のかかわり	① ○ ○ ○ ○	3	1. 今、多くの政治の在り方はいつ登場したのだろう？ 2. 民主政治のために必要な思想とは何だろう？ 3. 他者や社会とどうやってかかわればいいのだろう？ 【1学期期末考査】	(物)人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利・眞實・義務など、公共的な空間における基本の原則について理解できている。 (物)自分たちの立場に立つて他人の立場に立つて在り方生き方を考察するための視点、判断の手掛かりを考察できている。 (物)民主政治が自らの生活でいかでやっていることを理解し、民主社会で主体的に生きる人間の在り方生き方にについて思慮を深められている。

「数学Ⅰ」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	数学	単位数	3
学科	全学科	学年・組	1学年全学級
使用教科書	高校数学Ⅰ 新訂版 実教出版		
副教材	スタディノート 高校数学Ⅰ 新訂版		

「数学Ⅰ」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

概要	1章 数と式	目標	数と式、2次関数、三角比、集合と論証、データの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用する能力を育てる。
	2章 2次関数		
	3章 三角比		
	4章 集合と論証		
	5章 データの分析		

授業の進め方

*授業形態 (1) 1クラスを2つのグループに分けて行う。 (習熟度別グループ編成) (2) 学期ごとに成績によって入れ替えを行う。	*授業の際の心構え (1) 教科書・ノート・筆記用具を常に持参。 (2) 板書事項をきちんとノートにとる。 (3) 私語等をしない。 ※凡事徹底
---	--

「数学Ⅰ」の評価の観点

評価の観点	内 容
知識・態度	数学Ⅰにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができます。
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けています。
主体的に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

<評価>

- (1) 「知識・技能」「思考・判断・判断」は、定期考査等で総合的に判断し評価する。
 (2) 「主体的に学習に取り組む態度」は、出席状況や授業態度及び提出物で評価する

評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」（3観点）を
 A・上△満足△であります B・おおむね満足△であります C・努力ある西△

A: 十分にできる、B: わかるほどできる、C: 分かりづらい
で表します。さらに、3観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比重	4	3	3

【学習計画】

学期	学習項目	学習内容	
1 学期	1章 数と式 1節 整式	1. 文字式のきまり 3. 整式の加法・減法 5. 乗法公式による展開	2. 整式 4. 整式の乗法 6. 因数分解
	2節 実数	1. 平方根とその計算	2. 実数
	3節 方程式と不等式	1. 1次方程式 3. 不等式の性質 5. 連立不等式	2. 不等式 4. 1次不等式 6. 不等式の応用
	2章 2次関数 1節 関数とグラフ	1. 1次関数とそのグラフ 2. 2次関数とそのグラフ	
	2節 2次関数の値の変化	1. 2次関数の最大値・最小値 2. 2次関数のグラフと2次方程式 3. 2次関数のグラフと2次不等式	
2 学期	3章 三角比 1節 三角比	1. 三角形 3. 三角比の利用	2. 三角比 4. 三角比の相互関係
	2節 三角比の応用	1. 三角比の拡張 3. 正弦定理 5. 正弦定理と余弦定理の利用	2. 三角形の面積 4. 余弦定理
	4章 集合と論証 1節 集合	1. 集合と要素	
	2節 命題と証明	1. 命題	2. いろいろな証明法
3 学期	5章 データの分析 1節 データの分析	1. 統計とグラフ 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値 5. 相関関係	4. データの散らばり

備考

「数学II」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	数学	単位数	2
学科	全学科	学年・組	2学年A Sクラス
使用教科書	高校数学II 新訂版 実教出版		
副教材	スタディノート 高校数学II 新訂版		

「数学II」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

概要	1章 複素数と方程式	目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する能力を育てる。
	2章 図形と方程式		
	3章 いろいろな関数 (3年で学習)		
	4章 微分と積分 (3年で学習)		

授業の進め方

*授業形態 (1) 演習を通じ自ら考える時間を確保する。 (2) 入試問題に挑戦し実力を付ける。	*授業の際の心構え (1) 教科書・ノート・筆記用具を常に持参。 (2) 板書事項をきちんとノートにとる。 (3) 私語等をしない。 ※凡事徹底
--	--

「数学II」の評価の観点

評価の観点	内容
知識・技能	数学IIにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができます。
思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する力を身につけることができる。
主体的に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

<評価>

- (1) 「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査等で総合的に判断し評価する。
- (2) 「主体的に学習に取り組む態度」は、出席状況や授業態度及び提出物で評価する

評価の観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価されます。さらに、各観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比重	4	3	3

【学習計画】

学期	学習項目	学習内容	
1 学 期	1章 複素数と方程式 1節 式の計算	1. 整式の乗法 3. 整式の除法	2. 二項定理 4. 分式
	2節 複素数と2次方程式	1. 複素数 3. 解と係数の関係	2. 2次方程式
	3節 高次方程式	1. 剰余の定理と因数定理	2. 高次方程式
	4節 式と証明	1. 式と証明	
2 学 期	2章 図形と方程式 1節 点と座標	1. 直線上の点の座標の内分・外分 2. 平面上の点の座標の内分・外分	
	2節 直線の方程式	1. 直線の方程式	2. 2直線の関係
	3節 円の方程式	1. 円の方程式 3. 軌跡	2. 円と直線の関係
3 学 期	4節 不等式の表す領域	1. 円で分けられる領域 3. 連立不等式の表す領域	2. 線で分けられる領域

備考



「数学II」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	数学	単位数	2
学科	全学科	学年・組	3学年A Sクラス
使用教科書	高校数学II 新訂版 実教出版		
副教材	スタディノート 高校数学II 新訂版		

「数学II」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

概要	1章 複素数と方程式 (2年で学習)	目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する能力を育てる。
	2章 図形と方程式 (2年で学習)		
	3章 いろいろな関数		
	4章 微分と積分		

授業の進め方

*授業形態 (1) 演習を通じ自ら考える時間を確保する。 (2) 互いに協同・協力し問題解決する力を付ける。 (3) 入試問題に挑戦し実力を付ける。	*授業の際の心構え (1) 教科書・ノート・筆記用具を常に持参。 (2) 板書事項をきちんとノートにとる。 (3) 私語等をしない。 ※凡事徹底
---	--

「数学II」の評価の観点

評価の観点	内 容
関心・意欲・態度	数学の理論や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらの事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
思考・判断	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。
技能・表現	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。

<評価>

- (1) 「関心・意欲・態度」は、出席状況や授業態度及び提出物で評価する。
 - (2) 「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」は、定期考查で評価する。
- ※ (1) を30点、(2) を70点として総合的に判断し評価する。

【学習計画】

学期	学習項目	学習内容	
1 学期	3章 いろいろな関数 1節 三角関数	1. 一般角 3. 三角関数の相互関係 5. 三角関数のグラフ	2. 三角関数 4. 三角関数の性質
	2節 加法定理／弧度法	1. 加法定理 3. 弧度法	2. 加法定理の応用
	3節 指数関数	1. 指数の拡張	2. 指数関数のグラフ
2 学期	4節 対数関数	1. 対数 3. 対数関数のグラフ	2. 対数の性質 4. 常用対数
	4章 微分と積分 1節 微分係数と導関数	1. 平均変化率 3. 導関数	2. 微分係数
	2節 導関数の応用	1. 関数の増加・減少 3. 関数の最大・最小	2. 関数の極大・極小
	3節 積分の考え方	1. 不定積分 3. いろいろな図形の面積	2. 定積分
3 学期			

備考

「数学A」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	数学	単位数	2
学科	全学科	学年・組	2学年全学級
使用教科書	数A708 「高校数学A」 実教出版		
副教材	「高校数学A専用 スタディノート」 実教出版		

「数学A」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

概要	1章 場合の数と確率	目標	場合の数と確率、整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
	2章 整数の性質		
	3章 図形の性質（3章は学習しない）		

授業の進め方

*授業形態 (1) 1クラスを2つのグループに分けて行う。 (習熟度別グループ編成) (2) 学期ごとに成績によって入れ替えを行う。	*授業の際の心構え (1) 教科書・ノート・筆記用具を常に持参。 (2) 板書事項をきちんとノートにとる。 (3) 私語等をしない。 ※凡事徹底
---	--

「数学A」の評価の観点

評価の観点	内容
知識・技能	数学Aにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができます。
思考・判断・表現	不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身につけることができる。
主体的に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

<評価>

- (1) 「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査等で総合的に判断し評価する。
 (2) 「主体的に学習に取り組む態度」は、出席状況や授業態度及び提出物で評価する

評価は、「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」（3観点）を
 A：十分満足にできている、B：おおむね満足できる、C：努力を要する
 で表します。さらに、3観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	-------	----------	---------------

比重	4	3	3
----	---	---	---

【学習計画】

学期	学習項目	学習内容	
1 学 期	1章 場合の数と確率 1節 場合の数	1. 集合と要素 3. 場合の数 5. 組合せ	2. 集合の要素の個数 4. 順列
	2節 確率	1. 事象と確率 3. 独立な試行とその確率 5. 条件つき確率	2. いろいろな事象の確率 4. 反復試行とその確率 6. 期待値
2 学 期	2章 図形の性質 1節 三角形の性質	1. 三角形の角 3. 三角形の外心・内心・重心	2. 三角形と線分の比
	2節 円の性質	1. 円周角 3. 円の接線 5. 2つの円	2. 円と四角形 4. 方べきの定理
	3節 作図	1. 基本の作図 3. 三角形の外心・内心・重心の作図	2. いろいろな作図
	4節 空間図形	1. 空間ににおける直線と平面	2. 多面体
3 学期	3章 数学と人間の活動 1節 数と人間	1. 数の歴史 3. 整数の性質とユークリッドの互除法	2. 2進法とコンピューター

備考

「化学リテラシー」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	1単位
学科	全学科(AS対象者)	学年・組	2学年(AS対象者)
使用教科書	なし		
副教材	なし		

「化学リテラシー」とはこんな科目です(科目の概要と学習目標)

「化学リテラシー」の特徴は、「化学基礎」の履修を踏まえ、大学等へ進学した後、学習を進める時に必要とされる基礎学力(知識)の修得と、より実験・実習の基礎的な素養を定着することを目的にしている。特に、農業系への進学を視野に入れ、有機化合物や高分子化合物を中心に学習し、また、実験分析に必要な基礎知識などを身に付け、化学的な考え方や探求する方法を学ぶとともに、具体的な事例を取り上げて化学の果たす役割を理解し、化学に対する興味・関心を高めることを目的とする科目である。

授業の進め方

*授業形態

- 40人一斉授業
- 実験・実習時は4人1グループのグループ学習

*授業の際の心構え

- 実験時は危険な薬品・器具等を扱うため、実験・実習の基礎的な技能を身につけ取り組む

「化学リテラシー」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・理解	授業内容や実験・観察から、物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察、実験などを行い、基本操作を習得し、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象を科学的に探究する技能を身に付けている。	定期考査 実験レポート 授業プリント
思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 実験レポート 授業プリント
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	定期考査 実験レポート 授業プリント
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目・実験（探究）項目	学習の内容・目標
1 学 期	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 【探究7】気体の分子量測定 【探究8】化学反応における量的関係	* 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について、観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解し、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。 ·元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。 ·物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 ·物質の溶解について理解し、濃度。溶解度の求め方を理解する。 ·定められた濃度の水溶液を作り、器具の扱い方の基本を理解する。 ·化学反応式は化学反応に関する物質とその量的関係を表すことを理解する。
2 学 期	第2章 酸・塩基 【観察実験14】水溶液の性質 【観察実験15】酸性の強弱 【観察実験16】pHの測定 【観察実験17】塩の水溶液の性質	·酸と塩基の定義を理解する。 ·酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。
3 学 期	【探究9】滴定曲線をかく 【探究10】食酢の濃度を調べる 第3節 酸化還元反応 【観察実験18】マグネシウムの燃焼 【探究11】酸化剤と還元剤の反応 【観察実験19】金属に絵を描く 【探究12】金属の反応性を調べる 【探究13】乾電池をつくる	·中和とその量的関係、中和滴定の操作を習得し、中和滴定曲線を理解する。 ·酸化と還元の定義を理解する。 ·酸化数を学習し、酸化剤と還元剤の反応を理解する。 ·金属にイオン化する優劣があることを理解し、イオン化傾向とイオン化列を理解する。 ·酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。

※評価は、「知識・技能(技術)」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」(3観点)を A : 十分満足できる、B : おおむね満足できる、C : 努力を要する、で表します。さらに、3観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
比重	40	30	30

「 化 学 基 础 」 シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	理 科	単位数	2 単位
学 科	全学科 (AS 準備クラス)	学年・組	1 学年・1 組
使用教科書	東京書籍「新編化学基礎」 2 東書 化基 314		
副教材	なし		

「化学基礎」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「化学基礎」の特徴は、物質が様々な場面で人間生活に関わり、役立っていることを理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方、基礎的な素養を身につけることを目的にしている。原子、分子、イオンなど物質を構成する粒子や化学結合、化学反応などを扱い、それらの事物・現象が物質の性質に関係するという考え方を基礎とし、化学的な考え方や探求する方法を学ぶとともに、生活を支える物質やその適切な使用など、日常生活や社会で利用されている具体的な事例を取り上げて化学の果たす役割を理解し、化学に対する興味・関心を高めることを目的とする科目である。

授業の進め方

*授業形態

- 40 人一斉授業
- 実験・実習時は 4 人 1 グループのグループ学習

*授業の際の心構え

- 実験時は危険な薬品・器具等を扱うため、基礎的な技能を身につけ取り組む

「化学基礎」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	授業内容や実験・観察から、物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得し、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象を科学的に探究する技能を身に付けている。	定期考査 実験レポート 授業プリント
思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 実験レポート 授業プリント
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	定期考査 実験レポート 授業プリント

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目・実験（探究）項目	学習の内容・目標
1 学 期	序編 化学と人間生活 【探究1】金属の精錬 【探究2】プラスチックの識別 【観察実験2】ハットボトルから繊維を 第1編 物質の構成 第1章 物質の成分と構成元素 【観察実験4】赤ワインの分離 【探究3】混合物の分離 【観察実験5】色素の分離 【観察実験6】炎色反応 【探究4】成分元素を調べよう 第2章 原子の構造と元素の周期表 【観察実験8】放射性同位体の利用 【観察実験9】アルカリ金属の性質 【観察実験10】電解質、非電解質 【探究5】分子の模型を組み立てる 【観察実験11】分子の極性 【観察実験12】金属結晶の性質	<ul style="list-style-type: none"> *化学が物質を対象とする科学であること、化学が人間生活に果たしている役割を理解し、関心を高め、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付ける。 ・金属の精錬、セミックス、プラスチック、繊維など身近な物質の化学を理解する。 ・食料の確保、食料の保存、洗剤、物質と環境リスクについて学習し理解を深める。 *原子の構造、電子配置と周期律との関係を理解し、物質の性質について観察、実験から探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解し、物質について微視的な見方を身に付ける。 ・化合物と単体を学習し、元素について理解する。 ・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 ・混合物の分離や成分元素の検出の観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。 ・イオン結合及びイカ结合でできた物質の性質を理解する。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解する。 ・分子からなる物質の性質を理解する。 ・金属結晶と共有結晶について学習し、化学結合の種類によって、物質を分類できることを理解する。
2 学 期	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 【探究7】気体の分子量測定 【探究8】化学反応における量的関係 第2章 酸・塩基 【観察実験14】水溶液の性質 【観察実験15】酸性の強弱 【観察実験16】pHの測定 【観察実験17】塩の水溶液の性質	<ul style="list-style-type: none"> *化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について、観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解し、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。 ・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。 ・物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 ・物質の溶解について理解し、濃度。溶解度の求め方を理解する。 ・定められた濃度の水溶液を作り、器具の扱い方の基本を理解する。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 ・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。

3 学 期	<p>【探究9】滴定曲線をかく 【探究10】食酢の濃度を調べる</p> <p>第3節 酸化還元反応 【観察実験18】マグネシウムの燃焼 【探究11】酸化剤と還元剤の反応 【観察実験19】金属に絵を描く 【探究12】金属の反応性を調べる 【探究13】乾電池をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中和とその量的関係、中和滴定の操作を習得し、中和滴定曲線を理解する。 ・酸化と還元の定義を理解する。 ・酸化数を学習し、酸化剤と還元剤の反応を理解する。 ・金属に付着する優劣があることを理解し、付着傾向と付着列を理解する。 ・酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。 							
	<p>※評価は、「知識・技能(技術)」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」(3観点)をA:十分満足できる、B:おおむね満足できる、C:努力を要する、で表します。さらに、3観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th><th>知識・技能(技術)</th><th>思考・判断・表現力</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>比重</td><td>40</td><td>30</td><td>30</td></tr> </tbody> </table>		評価の観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度	比重	40	30
評価の観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度						
比重	40	30	30						

「化学基礎」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	2単位
学科	アグリフード科、グリーンライフ科、フードプロデュース科、ライフスキル科	学年・組	3学年（教科内選択）
使用教科書	東京書籍「新編化学基礎」2 東書 化基314		
副教材	なし		

「化学基礎」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「化学基礎」の特徴は、物質が様々な場面で人間生活に関わり、役立っていることを理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方、基礎的な素養を身につけることを目的にしている。原子、分子、イオンなど物質を構成する粒子や化学結合、化学反応などを扱い、それらの事物・現象が物質の性質に関するという考え方を基礎とし、化学的な考え方や探求する方法を学ぶとともに、生活を支える物質やその適切な使用など、日常生活や社会で利用されている具体的な事例を取り上げて化学の果たす役割を理解し、化学に対する興味・関心を高めることを目的とする科目である。

授業の進め方

*授業形態

- 40人一斉授業
- 実験・実習時は4人1グループのグループ学習

*授業の際の心構え

- 実験時は危険な薬品・器具等を扱うため、基礎的な技能を身につけ取り組む

「化学基礎」の評価の観点

評価の観点	内容	評価方法
関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	定期考査 実験レポート 授業プリント
思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 実験レポート 授業プリント
観察・実験技能	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得し、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事象を科学的に探究する技能を身に付けている。	定期考査 実験レポート 授業プリント
知識・理解	授業内容や実験・観察から、物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査 実験レポート 授業プリント

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目・実験（探究）項目	学習の内容・目標
1 学期	序編 化学と人間生活 【探究1】金属の精錬 【探究2】プラスチックの識別 【観察実験2】ペットボトルから纖維を 第1編 物質の構成 第1章 物質の成分と構成元素 【観察実験4】赤ワインの分離 【探究3】混合物の分離 【観察実験5】色素の分離 【観察実験6】炎色反応 【探究4】成分元素を調べよう 第2章 原子の構造と元素の周期表 【観察実験8】放射性同位体の利用 【観察実験9】アルカリ金属の性質 【観察実験10】電解質、非電解質 【探究5】分子の模型を組み立てる 【観察実験11】分子の極性 【観察実験12】金属結晶の性質	<ul style="list-style-type: none"> * 化学が物質を対象とする科学であること、化学が人間生活に果たしている役割を理解し、関心を高め、観察、実験などを通して物質を探究する方法の基礎を身に付ける。 ・金属の精錬、セラミック、プラスチック、纖維など身近な物質の化学を理解する。 ・食料の確保、食料の保存、洗剤、物質と環境リスクについて学習し理解を深める。 * 原子の構造、電子配置と周期律との関係を理解し、物質の性質について観察、実験から探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解し、物質について微視的な見方を身に付ける。 ・化合物と単体を学習し、元素について理解する。 ・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解する。 ・混合物の分離や成分元素の検出の観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。 ・イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解する。 ・分子からなる物質の性質を理解する。 ・金属結晶と共有結晶について学習し、化学結合の種類によって、物質を分類できることを理解する。
2 学期	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 【探究7】気体の分子量測定 【探究8】化学反応における量的関係 第2章 酸・塩基 【観察実験14】水溶液の性質 【観察実験15】酸性の強弱 【観察実験16】pHの測定 【観察実験17】塩の水溶液の性質	<ul style="list-style-type: none"> * 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について、観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解し、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。 ・元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。 ・物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 ・物質の溶解について理解し、濃度、溶解度の求め方を理解する。 ・定められた濃度の水溶液を作り、器具の扱い方の基本を理解する。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 ・酸と塩基の定義を理解する。 ・酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。

3 学 期	<p>【探究9】滴定曲線をかく 【探究10】食酢の濃度を調べる</p> <p>第3節 酸化還元反応 【観察実験18】マグネシウムの燃焼 【探究11】酸化剤と還元剤の反応 【観察実験19】金属に絵を描く 【探究12】金属の反応性を調べる 【探究13】乾電池をつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中和とその量的関係、中和滴定の操作を習得し、中和滴定曲線を理解する。 ・酸化と還元の定義を理解する。 ・酸化数を学習し、酸化剤と還元剤の反応を理解する。 ・金属に付着する優劣があることを理解し、付着傾向と付着剤を理解する。 ・酸化還元反応と日常生活や社会との関わりについて理解する。
-------------	---	--

備考

*課題：理解度・学習態度を把握するため、毎時間ノート（プリント）点検を行う

*補習：定期考査ごとに、60点以下だった生徒には、再考査により60点以上取得で補習とする

「科学と人間生活」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	2単位
学科	全学科	学年・組	1学年(2・3・4組)
使用教科書	東京書籍「科学と人間生活」 2 東書 科人 701		
副教材	なし		

「科学と人間生活」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解し、科学に対する興味・関心を高めることを目的とします。「地球は本当に動いているのか」「虹はなぜ半円形なのか」、「何も繋がれていないのに、なぜ携帯電話で話ができるのか」、など生活の中に潜む見えない世界について学習する科目です。

授業の進め方

*授業形態

通常授業：一斉授業、 実験：グループ学習

*授業の際の心構え

1. 学習用具はきちんと揃えて授業に参加しよう。
2. 授業に集中しよう。(説明中の私語は厳禁)
3. 授業内容で疑問に感じたことがあれば、積極的に質問しよう。

「科学と人間生活」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、観察・実験を通して理解し、知識を身に付けている。観察・験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	定期考査 実験レポート 授業プリント
思考・判断・表現	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割の中に問題を見だし、観察・実験を通して事象を科学的に考察し、導き出した考え方を的確に表現している。	定期考査 実験レポート 授業プリント
主体的に学習に取り組む態度	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について興味・関心を持ち、意欲的に探求しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	実験レポート 授業プリント

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	1編 生命の科学 1章 生物と光 ① 植物の生育と光 ② 光シグナルと生物 ③ ヒトの視覚と光 2編 物質の科学 2章 衣料と食品 ① 衣料	*反応に必要な物質、反応後に生成される物質を確認しながら、光合成について学習する。 (光合成色素、ブドウ糖、光補償点、光飽和点、等) *光に対する植物・動物の性質について学習する。 (屈性、光周性、限界暗期、走性、日周リズム、等) *光とヒトの視覚について学習する。 (眼球の構造、視覚と錯視、等) *身の回りにある纖維の種類とその特徴について学習する。(天然纖維、化学纖維、等)
2 学期	② 食品 3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用 ① 目に見える光の世界 ② 光の進み方とその基本的性質 ③ 見えない光とその応用	*食品を構成する成分や、体内における消化・吸収について学習する。(炭水化物、タンパク質、油脂、消化酵素、等) *太陽光(色)について学習する。 (スペクトル、波長、物の色、光の3原色、等) *光の性質(波)について学習する。 (屈折、反射、回折、干渉、等) *光(電磁波)の種類について学習する。 (γ 線、X線、紫外線、可視光線、赤外線、電波、)
3 学期	4編 宇宙や地球の科学 1章 身近な天体と太陽系における地球 ① 天体が刻む「時」 ② 太陽系の構造 ③ 太陽が動かす大気と水	*天体と暦(時間)の関係について学習する。 (日周運動、太陽暦、太陰暦、等) *太陽について学習する。 (エネルギー源、大きさの測定、昼と夜の見え方の違い) *太陽系について学習する。 (太陽系の惑星、小惑星、衛星、天動説と地動説、等) *太陽エネルギーが引き起こす自然現象について学習する。(大気の大循環、海流、等)

備考

評価は、「知識・技能(技術)」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」(3観点)をA:十分満足できる、B:おおむね満足できる、C:努力を要する、で表します。さらに、3観点を次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能(技術)	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
比重	40	30	30

「生物リテラシー」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	2単位
学科	全学科(AS対象者)	学年・組	3学年(AS対象者)
使用教科書	なし		
副教材	なし		

「生物リテラシー」とはこんな科目です(科目の概要と学習目標)

大学等へ進学した際に必要とされる生物分野の知識及び、実験・観察技術の、さらなる習得を目的とする科目です。「生物基礎」の履修を前提としており、当該科目の内容を発展、拡充し、農業分野との関連により着目した内容となっています。学習目標は、生命現象(特に植物分野)、遺伝子・バイオテクノロジー、環境についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うとともに、農業分野での応用実践力を養うことです。

授業の進め方

*授業形態

40人一斉授業。実験・観察時は、1グループ1~4人のグループ学習。

*授業の際の心構え

全ての内容において、農業分野との関連を意識する。

「生物リテラシー」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
关心・意欲・態度	生物分野の諸事象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的态度を身に付けています。	授業態度 課題プリント
思考・判断・表現	生物分野の諸事象の中に問題を見いだし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しています。	定期考查 課題プリント プレゼンテーション
観察・実験技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの課程や結果を的確に記録、整理し、生物分野の諸事象を科学的に探究する技能を身に付けています。	定期考查 課題プリント
知識・理解	生物分野の諸事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けています。	定期考查 課題プリント
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①生命現象のプラス	*日常生活や農業分野との関連を図りながら生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・生体物質について理解する。 ・細胞の内部構造について理解する。 ・解糖と発酵について理解する。 ・酸素を用いた呼吸について理解する。 ・炭酸同化、窒素同化について理解する。 ・優性生殖、無性生殖について理解する。 ・植物の発生について理解する。 ・植物の環境応答・植物ホルモンについて理解する。
2 学期	②遺伝子のプラス	*遺伝子について観察、実験などを通して探究し、DNAの構造と機能及び、遺伝子工学技術の概要を理解し、農業分野での応用視点を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・優性生殖と遺伝の大義について理解する。 ・DNAの構造と複製について理解する。 ・遺伝子発現について理解する。 ・遺伝子発現調節と突然変異について理解する。 ・細胞融合について理解する。 ・PCR、シーケンス技術等について理解する。 ・遺伝子組換え作物について理解する。 ・遺伝子組換え技術の明と暗について理解する。
3 学期	③環境のプラス	*生物の多様性と生態系について観察、実験などを通して探究し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識するとともに、農業と環境との関わりの視点を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・生物の系統と個体群について理解する。 ・生態系と環境問題について理解する。

備考

*課題プリントは評価全体の中心となるため、毎授業課して、評価する。

*中間、期末の各考查において授業者の定めた目標点（50～70点）以下だった生徒は、考查や授業内容に即した課題を達成する必要がある。

「生物基礎」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	3単位
学科	全学科	学年・組	2学年（教科内選択）
使用教科書	第一学習社「改訂 新生物基礎」生基 319		
副教材	特になし		

「生物基礎」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

生物や生物現象に関わる基礎的な内容を扱い、身の回りの自然や日常生活や社会との関連性を意識しながら理解し、基礎的な素養を身に付けるという科目的特徴があります。また、その理解を助けるため、共通性と多様性という視点を導入しています。学習目標は、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養うことです。

授業の進め方

*授業形態

一斉授業。実験・観察時は、1グループ1～4人でのグループ学習。

*授業の際の心構え

実験・観察の内容は、自身の所属学科に即した内容を中心に扱う。

「生物基礎」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	定期考查 課題プリント レポート
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する課程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考查 課題プリント レポート
主体的に学ぶ態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的态度を身に付けている。	定期考查 課題プリント レポート

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	1.生物にみられる多様性と共通性	*日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学的基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 <ul style="list-style-type: none">・生物の共通性の由来、細胞構造の共通性と多様性・真核細胞の構造・代謝とエネルギー、光合成、呼吸・ミトコンドリアと葉緑体の起源・探究活動（原核生物と真核生物、光合成）
	2.細胞とエネルギー	
	3.遺伝子とDNA	*生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働きおよびDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付ける。 <ul style="list-style-type: none">・遺伝子、染色体、DNAの構造、DNAの複製と分配
2 学期	4.遺伝子の働き	<ul style="list-style-type: none">・遺伝子の発現、タンパク質、細胞と遺伝子の働き・探究活動（DNA抽出、ユスリカ打腺染色体の観察）
	5.体液とその働き	*生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解し、体内環境の維持と健康との関係について認識する。 <ul style="list-style-type: none">・体液とその働き、循環、濃度調節・肝臓の働き、体内環境の調節のしくみ・自立神経系の働き、ホルモンによる体内環境維持・血糖量の調節、体温の調節・生体防御、体液性免疫、細胞性免疫・探究活動（運動による脈拍数変化）
	6.体内環境を維持する仕組み	
	7.生体防御	
	8.植生と遷移	
	9.気候とバイオーム	*生物の多様性と生態系、バイオームについて観察、実験などを通して探究し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 <ul style="list-style-type: none">・植物と環境、植生、遷移・気温、降水量とバイオーム・日本、世界のバイオーム・探究活動（陽葉と陰葉、石垣島のバイオーム）
	10.生態系と物質循環	
	11.生態系のバランスと保全	<ul style="list-style-type: none">・生態系、物質循環とエネルギーの流れ、物質循環・生態系のバランス、人間活動と生態系・探究活動（分解者、沖縄と八重山の自然）
3 学期		

備考

*課題プリントは評価全体の中心となるため、毎授業課して、評価する。

*中間、期末の各考査において授業者の定めた目標点（50～70点）以下だった生徒は、考査や授業内容に即した課題を達成する必要がある。

「地学基礎」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	2単位
学科	アグリフード科、ライフスキル科 フードプロデュース科	学年・組	3学年（教科内選択）
使用教科書	第一学習社「改訂 高等学校 地学基礎」183 第一 地基 310		
副教材	なし		

「地学基礎」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

宇宙の誕生と地球の形成について観察・実験を行いながら探求し、惑星「地球」の特徴を理解すること、地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたことを理解することを目的とします。「なぜ星によって色が違うのか」、「夕日はなぜ赤いのか」、「日本はなぜ地震が多いのか」など、私たちが疑問に思うことについて学習すると共に、今地球が抱えている温暖化等の問題についても考えていく科目です。

授業の進め方

* 授業形態

通常授業：一斉授業 , 実験：グループ学習、体験学習、調べ物学習

* 授業の際の心構え

1. 学習用具はきちんと揃えて授業に参加しよう。
2. 授業に集中しよう。（説明中の私語は厳禁）
3. 授業内容で疑問に感じたことがあれば、積極的に質問しよう。

「地学基礎」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や宇宙について関心を持ち、意欲的に探求するとともに、地学的な事物・事象を科学的な見方や考え方で捉えている。	授業態度 実験プリント 授業プリント
思考・判断・表現	地球や宇宙に関する事物・事象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考え方を的確に表現している。	定期考査 実験プリント 授業プリント
観察・実験技能	地球や宇宙に関する観察実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・事象を科学的に探求する技能を身に付けている。	定期考査 実験プリント 授業プリント
知識・理解	地球や宇宙について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査 実験プリント 授業プリント

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学 期	第1章 宇宙における地球 第1節 宇宙の構成 第2節 太陽 第3節 太陽系の中の地球 第2章 活動する地球 第1節 地球の姿	*誕生から現在に至るまで、膨張する「宇宙」について学習する。(ビッグバン、宇宙マイクロ背景放射、等) *「光」について学習する。 (電磁波、紫外線、赤外線、可視光線、太陽スペクトル) *「恒星」の誕生と進化について学習する。 (太陽、HR図、主系列星、等) *「太陽系」を構成する天体について学習する。 (地球型惑星、木星型惑星、小惑星、衛星、等) *「地球」の形、大きさ、質量、等について学習する。 (地球橢円体、ジオイド、地球の内部構造、等)
2 学 期	第2節 火山活動と地震 第3章 移り変わる地球 第1節 地層や岩石と地質構造 第2節 地球環境と生物界の変遷 第4章 大気と海洋 第1節 地球の熱収支 第2節 大気と海洋の運動	*「火山の噴火」について学習する。 (世界の火山、マグマの性質、火山の形、火成岩、等) *「地震」について学習する。 (震源、マグニチュード、P波とS波、断層、等) *「地層」や「岩石」より、大地が受けた変動の跡について学習する。(続成作用、堆積岩、變成岩、褶曲、等) *「地質時代」より、生物界の変遷について学習する。 (相対年代と絶対年代、生命の誕生、大量絶滅、等) *「太陽放射」と「地球のエネルギー収支」について学習する。(大気圏、大気の大循環、海洋の大循環、等)
3 学 期	第5章 地球の環境 第1節 地球環境の科学 第2節 日本の自然環境	*人間活動が及ぼす地球環境への影響について学習する。 (地球温暖化、オゾン層の破壊、エルニーニョ現象、等) *四季における「天気の移り変わり」について学習する。 (気団、季節風、気圧配置、等) *日本の「自然景観」について学習する。 (豊かな水、降水量、地形、等) *「気象災害」、「温暖化」、「防災」について学習する。 (集中豪雨、台風、土砂災害、地震、津波、温暖化、等)

備考

- *成績：定期考查、課題（プリント）の取り組み状況、授業の学習状況を総合的に評価します。
- *補習：生徒の理解度が目標まで到達していない場合は、別課題への取り組みが必要となります。

「地学基礎」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	3単位
学科	アグリフード科、ライフスキル科 フードプロデュース科	学年・組	2学年（教科内選択）
使用教科書	第一学習社「高等学校 地学基礎」183 第一 地基705		
副教材	なし		

「地学基礎」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

宇宙の誕生と地球の形成について観察・実験を行いながら探求し、惑星「地球」の特徴を理解すること、地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたことを理解することを目的とします。「なぜ星によって色が違うのか」、「夕日はなぜ赤いのか」、「日本はなぜ地震が多いのか」など、私たちが疑問に思うことについて学習すると共に、今地球が抱えている温暖化等の問題についても考えていく科目です。

授業の進め方

* 授業形態

通常授業：一斉授業 , 実験：グループ学習、調べ物学習、体験学習

* 授業の際の心構え

1. 学習用具はきちんと揃えて授業に参加しよう。
2. 授業に集中しよう。（説明中の私語は厳禁）
3. 授業内容で疑問に感じたことがあれば、積極的に質問しよう。

「地学基礎」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や宇宙について関心を持ち、意欲的に探求するとともに、地学的な事物・事象を科学的な見方や考え方で捉えている。	授業態度 実験プリント 授業プリント
思考・判断・表現	地球や宇宙に関する事物・事象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考え方を的確に表現している。	定期考査 実験プリント 授業プリント
知識・技能	地球や宇宙について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査 実験プリント 授業プリント

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学 期	第1章 宇宙における地球 第1節 宇宙の構成 第2節 太陽 第3節 太陽系の中の地球 第2章 活動する地球 第1節 地球の姿	*誕生から現在に至るまで、膨張する「宇宙」について学習する。(ビッグバン、宇宙マイクロ背景放射、等) *「光」について学習する。 (電磁波、紫外線、赤外線、可視光線、太陽スペクトル) *「恒星」の誕生と進化について学習する。 (太陽、HR図、主系列星、等) *「太陽系」を構成する天体について学習する。 (地球型惑星、木星型惑星、小惑星、衛星、等) *「地球」の形、大きさ、質量、等について学習する。 (地球橢円体、ジオイド、地球の内部構造、等)
2 学 期	第2節 火山活動と地震 第3章 移り変わる地球 第1節 地層や岩石と地質構造 第2節 地球環境と生物界の変遷 第4章 大気と海洋 第1節 地球の熱収支 第2節 大気と海洋の運動	*「火山の噴火」について学習する。 (世界の火山、マグマの性質、火山の形、火成岩、等) *「地震」について学習する。 (震源、マグニチュード、P波とS波、断層、等) *「地層」や「岩石」より、大地が受けた変動の跡について学習する。(続成作用、堆積岩、變成岩、褶曲、等) *「地質時代」より、生物界の変遷について学習する。 (相対年代と絶対年代、生命の誕生、大量絶滅、等) *「太陽放射」と「地球のエネルギー収支」について学習する。(大気圏、大気の大循環、海洋の大循環、等)
3 学 期	第5章 地球の環境 第1節 地球環境の科学 第2節 日本の自然環境	*人間活動が及ぼす地球環境への影響について学習する。 (地球温暖化、オゾン層の破壊、エルニーニョ現象、等) *四季における「天気の移り変わり」について学習する。 (気団、季節風、気圧配置、等) *日本の「自然景観」について学習する。 (豊かな水、降水量、地形、等) *「気象災害」、「温暖化」、「防災」について学習する。 (集中豪雨、台風、土砂災害、地震、津波、温暖化、等)

備考

- *成績：定期考查、課題（プリント）の取り組み状況、授業の学習状況を総合的に評価します。
- *補習：生徒の理解度が目標まで到達していない場合は、別課題への取り組みが必要となります。

「物理基礎」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	2単位
学科	グリーンライフ科	学年・組	3学年（教科内選択）
使用教科書	東京書籍「改訂 新編 物理基礎」 2 東書 物基 312		
副教材	なし		

「物理基礎」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

日常に起こる物体の運動や物理現象について、観察・実験を行いながら探求し、その基本的な概念や法則を理解することを目的とします。「熱と温度の違いとは」、「光の正体とは」、「力やエネルギーとは」、「振動と音の関係は」、「電子レンジで物が温められる理由とは」など生活の中に潜む見えない世界について学習する科目です。

授業の進め方

* 授業形態

通常授業：一斉授業 , 実験：グループ学習

* 授業の際の心構え

1. 学習用具はきちんと揃えて授業に参加しよう。
2. 授業に集中しよう。（説明中の私語は厳禁）
3. 授業内容で疑問に感じたことがあれば、積極的に質問しよう。

「物理基礎」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探求するとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	授業態度 実験プリント 授業プリント
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考查 実験プリント 授業プリント
観察・実験技能	物体の運動と様々なエネルギーに関する考察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する技能を身に付けている。	定期考查 実験プリント 授業プリント
知識・理解	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考查 実験プリント 授業プリント

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界 2章 力と運動の法則 3章 日常に潜む力 4章 仕事とエネルギー	* 「距離、時間、速さ、質量」などの物理量とその単位について学習する。([m], [s], [m/s], [kg], [N], 等) * 直接見ることができない「力」について、その表し方・考え方を学習する。(重力、垂直抗力、張力、弾性力、等) * 力が物体に及ぼす「作用」について学習する。 (力の合成・分解、剛体、運動の三法則、釣り合い、等) * 物理における「仕事の定義」「エネルギーの定義」「仕事との関係」について学習する。 ($W=Fs$, $U=mgh$, $K=1/2mv^2$)
2 学期	2編 物理現象とエネルギー 1章 熱 2章 波 3章 電気	* 「熱」と「物体の状態」について学習する。 (熱と温度の違い、物質の三態, $\Delta U=W+Q$, 等) * 「波」は何を伝えるのか。様々な「波」について学習する。(縦波・横波、光、音、周期、振動数、波長、等) * 身の回りにある「電気」について学習する。 (静電気、雷、乾電池、オームの法則、等) * 電磁誘導を理解し、発電の仕組みについて学習する。 (コイルと磁石の活用、モーターと発電機は表裏一体) * 波長により分類される「電磁波」について学習する。 (γ 線、X線、紫外線、可視光線、赤外線、電波)
3 学期	4章 エネルギー [探求活動]	* 様々な「エネルギー」について学習する。 (力学的エネルギー、熱エネルギー、電気エネルギー、光エネルギー、化学エネルギー、核エネルギー、等) * 「エネルギー効率」について学習する。 (効率を左右する大きな要因は「熱エネルギー」) * 原子の構造から「放射線」について学習する。 (原子核の崩壊、 α 線、 β 線、 γ 線、人体への影響、等) * 「原子力発電」について学習する。 (U^{235} 、核エネルギー、核分裂、核融合、等) * 色々なエネルギーとその活用について学習する (太陽光発電、風力発電、LED、超伝導、等)

備考

- * 成績：定期考查、課題（ノート・プリント）の取り組み状況、授業の学習状況を総合的に評価します。
- * 補習：生徒の理解度が目標まで到達していない場合は、別課題への取り組みが必要となります。

「物理基礎」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	理科	単位数	3単位
学科	グリーンライフ科	学年・組	2学年（教科内選択）
使用教科書	第一学習社「高等学校 新物理基礎」183第一 物基710		
副教材	なし		

「物理基礎」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

日常に起こる物体の運動や物理現象について、観察・実験を行いながら探求し、その基本的な概念や法則を理解することを目的とします。「熱と温度の違いとは」、「光の正体とは」、「力やエネルギーとは」、「振動と音の関係は」、「電子レンジで物が温められる理由とは」など生活の中に潜む見えない世界について学習する科目です。

授業の進め方

*授業形態

通常授業：一斉授業 , 実験：グループ学習

*授業の際の心構え

1. 学習用具はきちんと揃えて授業に参加しよう。
2. 授業に集中しよう。（説明中の私語は厳禁）
3. 授業内容で疑問に感じたことがあれば、積極的に質問しよう。

「物理基礎」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて関心を持ち、意欲的に探求するとともに、科学的な見方や考え方を身に付けています。	授業態度 実験プリント 授業プリント
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 実験プリント 授業プリント
知識・技能	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けています。	定期考査 実験プリント 授業プリント
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界 2章 力と運動の法則 3章 日常に潜む力 4章 仕事とエネルギー	* 「距離、時間、速さ、質量」などの物理量とその単位について学習する。([m], [s], [m/s], [kg], [N], 等) * 直接見ることができない「力」について、その表し方・考え方を学習する。(重力、垂直抗力、張力、弾性力、等) * 力が物体に及ぼす「作用」について学習する。(力の合成・分解、剛体、運動の三法則、釣り合い、等) * 物理における「仕事の定義」「エネルギーの定義」「仕事との関係」について学習する。 ($W=F_s$, $U=mgh$, $K=1/2mv^2$)
2 学期	2編 物理現象とエネルギー 1章 熱 2章 波 3章 電気	* 「熱」と「物体の状態」について学習する。 (熱と温度の違い、物質の三態, $\Delta U=W+Q$, 等) * 「波」は何を伝えるのか。様々な「波」について学習する。(縦波・横波、光、音、周期、振動数、波長、等) * 身の回りにある「電気」について学習する。(静電気、雷、乾電池、オームの法則、等) * 電磁誘導を理解し、発電の仕組みについて学習する。(コイルと磁石の活用、モーターと発電機は表裏一体) * 波長により分類される「電磁波」について学習する。 (γ 線、X線、紫外線、可視光線、赤外線、電波)
3 学期	4章 エネルギー [探求活動]	* 様々な「エネルギー」について学習する。 (力学的エネルギー、熱エネルギー、電気エネルギー、光エネルギー、化学エネルギー、核エネルギー、等) * 「エネルギー効率」について学習する。 (効率を左右する大きな要因は「熱エネルギー」) * 原子の構造から「放射線」について学習する。 (原子核の崩壊、 α 線、 β 線、 γ 線、人体への影響、等) * 「原子力発電」について学習する。 (U^{235} 、核エネルギー、核分裂、核融合、等) * 色々なエネルギーとその活用について学習する (太陽光発電、風力発電、LED、超伝導、等)

備考

- * 成績：定期考查、課題（ノート・プリント）の取り組み状況、授業の学習状況を総合的に評価します。
- * 補習：生徒の理解度が目標まで到達していない場合は、別課題への取り組みが必要となります。

「体育」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	体育	単位数	3
学科	全学科	学年・組	1年全組
使用教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity(第一学習社)		
副教材	保健体育ノート(第一学習社)		

「体育」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになり、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

授業の進め方

*授業形態：一斉授業または男女別選択授業

*授業の際の心構え

体育着（水着）、運動靴（体育館シューズ）を忘れない。自ら進んで授業に参加する。

「体育」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・理解	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	出席状況 授業参加の様子 授業時の身なり
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他社に伝える力を養う。	行動観察 学習ノート等の記述から評価
学びに向かう力、人間性	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	記録会・発表会 技能テスト ゲーム評価

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①オリエンテーション ②新体力テスト ③体つくり運動 ④集団行動 ⑤女子 水泳 男子 球技選択 ⑥男子 水泳 女子 球技選択	* 「体育」学習の意義や内容、評価の方法について理解する。 * 選択制授業の意義、学び方について知る * 自己の体力と運動能力の現状を知る * 自分の体の状態を知り体をほぐしたり、体力を高める運動をおこなう。 * 集団行動の意義や的確な行動ができるようになる。 * 安全な水泳学習と教え合い学習をめざす。 * チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。
2 学期	⑦男女 球技選択 ⑧持久走 ⑨武道・ダンス	* チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * 自己の記録を向上するための技能を高め、記録の向上の喜びや競走の楽しさを味わうことができるようになる。 * 武道・ダンスに親しみ、各クラスで発表する。
3 学期	⑩男女 球技選択 ⑪1年間の総括と評価	* チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * 関心・意欲・態度、思考・判断、運動技能、知識・理解の観点から総合的に判断して評価する。

「保健」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	保健	単位数	1
学科	全学科	学年・組	1年全組
使用教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity(第一学習社)		
副教材	保健体育ノート(第一学習社)		

「保健」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

授業の進め方

*授業形態：一斉授業 グループ学習

*授業の際の心構え：教科書、ノートを忘れずに。「主体的・対話的で深い学び」の実現。

「保健」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようする。	定期考査 授業態度 保健ノート
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	ワークシート・保健ノート 提出物 発表
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	ワークシート記入状況 出席状況 保健ノート 提出物・発表

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> • オリエンテーション • 国民の健康水準の向上と変化する健康問題 • 健康の保持増進とヘルスプロモーション • 感染症の予防 • 性感染症とその予防 • 生活習慣病の予防 • 食事と健康 • 健康と運動・休養・睡眠 • 喫煙と健康 • 飲酒と健康 • がんの発生と予防 • 薬物乱用とその防止 	<ul style="list-style-type: none"> • 保健授業の学習の意義や内容、評価の方法について理解する。 • 日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。また健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりがかかわること。 • 健康の増進のために、積極的な健康づくりである「ヘルスプロモーション」が重要になってきていることを知り、そのためのわが国や世界各国での取り組みについての理解を深める。 • 感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。性感染症の予防について正しく理解することができる。 • 有酸素運動をはじめ、各運動の特性や役割、効果について具体的に理解することができる。「休養・睡眠」の役割や、人間の日内リズムなどについて、正しく理解することができる。がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。 • がんの発生のメカニズム、発がん物質、また発がんの原因となる行動を知り、その予防と治療法についての理解を深める • 薬物乱用は心身の健康や社会環境に深刻な影響をあたえることから行なはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> • 脳と神経の働き • 欲求不満と適応規制 • 心の健康と精神疾患 • 精神疾患の予防と回復のために • 交通事故と安全の確保 • 安全・安心な社会作り 	<ul style="list-style-type: none"> • 人間の行動や精神活動などの全てをコントロールしている、脳・神経系・内分泌系の各部の働きについての理解を深める。 • 人間の欲求は様々なものがあるが、その全てが満たされるものではないため、欲求不満に対する耐性を身につけることの重要性についての理解を深める。 • 精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。 • 精神疾患は誰しもが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な処置により回復が可能であることについて理解を深める。 • 交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の命を尊重する態度、交通環境の整備などがかわること。また、交通事故には責任や補償問題が生じること。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> • 適切な応急手当の手順 • 心肺蘇生法の実践 • 日常的な応急手当 • 保健レポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> • 応急手当の重要性を知り、傷病者の観察や応急手当の正しい手順についての理解を深める。 • 胸骨圧迫・気道の確保・人工呼吸の心肺蘇生と除細動を加えた心肺蘇生法について、正しい手法を理解し、身につけることができるようとする。 • 日常おこるけがなどに対する手当の方法について知るとともに、熱中症への対策・予防についての理解を深める。 • 保健に関するレポートを作成し、発表する。

「体育」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	体育	単位数	2
学科	全学科	学年・組	2年全組
使用教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity(第一学習社)		
副教材	保健体育ノート(第一学習社)		

「体育」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになり、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

授業の進め方

* 授業形態：一斉授業または選択授業

* 授業の際の心構え

体育着（水着）、運動靴（体育館シューズ）を忘れない。自ら進んで授業に参加する。

「体育」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・理解	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	記録会・発表会 技能テスト ゲーム評価
思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他社に伝える力を養う。	行動観察 学習カード等の記述から評価
学びに向かう力、人間性	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	出席状況 行動観察 授業時の身なり
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学 期	①オリエンテーション ②新体力テスト ③体つくり運動 ④集団行動 ⑤女子 水泳 男子 球技選択 ⑥男子 水泳 女子 球技選択	<ul style="list-style-type: none"> * 「体育」学習の意義や内容、評価の方法について理解する。 * 選択制授業の意義、学び方について知る * 自己の体力と運動能力の現状を知る * 自己の体の状態を知り、体ほぐし・体力を高める運動をおこなう。 * 集団行動の意義や的確な行動ができるようにする。 * 安全な水泳学習と教え合い学習をめざす。 * チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。
2 学 期	⑦男女 球技選択 ⑧持久走 ⑨武道・ダンス	<ul style="list-style-type: none"> * チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * 自己の記録を向上するための技能を高め、記録の向上の喜びや競走の楽しさを味わうことができるようになる。 * 武道・ダンスに親しみ、各クラスで発表する。
3 学 期	⑩男女 球技選択 ⑪1年間の総括と評価	<ul style="list-style-type: none"> * チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * 関心・意欲・態度、思考・判断、運動技能、知識・理解の観点から総合的に判断して評価する。

「保健」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	保健	単位数	1
学科	全学科	学年・組	2年全組
使用教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity(第一学習社)		
副教材	保健体育ノート(第一学習社)		

「保健」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

授業の進め方

*授業形態：一斉授業 グループ学習

*授業の際の心構え：教科書、ノートを忘れずに。 静かに人の話を聞く。

「保健」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようする。	定期考查 授業態度 保健ノート
思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	定期考查・ワークシート 保健ノート 提出物 発表
主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	ワークシート記入状況 出席状況 保健ノート 提出物・発表

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

2年

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> • オリエンテーション • 思春期と健康 • 思春期の体と健康 • 結婚生活と健康 • 新しい生命の誕生 • 家族計画と不妊治療 • 加齢と健康 • 労働者の健康・安全と健康問題 • 労働災害・職業病とその予防 • 労働者の健康づくりと「働き方改革」 	<ul style="list-style-type: none"> • 保健学習の意義や内容、評価の方法について理解する。 • 心身ともに大人への過渡期である思春期に起こる心の成長について男女の意識の違いを含めて理解を深める。 • 思春期における、男女それぞれの生殖器官の発達や、それにもなる責任ある行動の重要性などについての理解を深める。ついて、男女の意識の違いなども含めて理解を深める。 • 結婚に関する制度を知るとともに、家族の健康を保つために、どのような対策が必要であるかについての理解を深める。 • 受精のメカニズムを知り、妊娠から出産までの過程と、胎児と母体の変化についての理解を深める。 • 家族計画の意義や避妊法の特徴などを知り、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響および、人工授精・体外受精などの問題点についても理解を深める。 • 加齢に伴う心身の変化について知り、壮年期以降の健康課題を知り、高齢社会における取り組みについて理解を深める。 • 労働と健康のかかわりについて理解を深める。また、職業の選択に当たって考慮すべきことについて考えることができるようとする。 • 労働災害や職業病について知り、労災予防のための対策についての理解を深める。 • 労働者の健康・安全をまもるために、わが国で行われている施策について知るとともに、自らがとるべき対策についても理解を深める。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> • 環境・食品と健康 • 大気汚染の健康への影響と対策 • 水質汚濁と土壤汚染の健康への影響と対策 • 廃棄物の処理と健康 • 環境衛生活動 • 食品の安全性の確保 • 保健・医療制度 • 地域の保健機関・医療機関の活用 • 医薬品と健康 	<ul style="list-style-type: none"> • 私たちを取り巻く環境についての歴史を知り、生物多様性の保持の重要性や、近年の人間活動による汚染の急増、地球環境問題などについての理解を深める。 • 大気汚染の原因を知るとともに、大気汚染によって引き起こされる健康被害について考え、大気汚染防止のための対策についての理解を深める。 • 水質汚濁や土壤汚染の現状・防止対策について知るとともに、公害などによる健康被害についても理解を深める。 • 産業廃棄物を処理する過程での不法投棄や不法な焼却などの問題点を知り、産業廃棄物による環境汚染を防ぐための施策についての理解を深める。 • 食品による健康被害の種類を知り、このような被害を防止するために行われている施策についての理解を深める。 • わが国で行われている、保健行政について具体的な施策を知るとともに、医療制度の仕組みやサービスについても理解を深める。 • 私たちの身の回りにある保健機関・医療機関について、それらの機関がもつ役割について理解を深め、活用できるようにする。 • 医薬品の有効性と危険性の両面について知り、医薬品は正しく使用する必要があることについての理解を深める。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> • さまざまな保健活動や社会的対策 • 健康に関する環境づくりと社会参加 • 保健レポート作成 	<ul style="list-style-type: none"> • わが国や世界で行われている、健康の保持・増進をはかるための保健活動や対策について知り、民間機関、国際機関の活動についての理解を深める。 • 健康の増進のために、積極的な健康づくりである「ヘルスプロモーション」が重要になってきていることを知り、わが国や世界各国での取り組みについての理解を深める。 • 保健に関するレポートを作成し、発表する。

「体育」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	体育	単位数	2
学科	全学科	学年・組	3年全組
使用教科書	最新保健体育(大修館書店)		
副教材	最新高等保健体育ノート(大修館書店)・アクティブスポーツ		

「体育」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようになり、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

授業の進め方

* 授業形態：一斉授業または選択授業

* 授業の際の心構え

体育着（水着）、運動靴（体育館シューズ）を忘れない。自ら進んで授業に参加する。

「体育」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	出席状況 授業参加の様子 授業時の身なり
思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方の工夫をしている。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	行動観察 学習ノート等の記述から評価
運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性におうじて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。	記録会・発表会 技能テスト ゲーム評価
知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表会の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。	行動観察 学習ノート等の記述から評価

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①オリエンテーション ②新体力テスト ③体つくり運動 ④集団行動 ⑤女子 水泳 男子 球技選択 ⑥男子 水泳 女子 球技選択	* 「体育」学習の意義や内容、評価の方法について理解する。 * 選択制授業の意義、学び方について知る * 自己の体力と運動能力の現状を知る * 自分の体の状態を知り体をほぐしたり、体力を高める運動をおこなう。 * 集団行動の意義や的確な行動ができるようになる。 * 安全な水泳学習と教え合い学習をめざす。 * チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。
2 学期	⑦男女 球技選択 ⑧持久走 ⑨武道・ダンス	* チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * 自己の記録を向上するための技能を高め、記録の向上の喜びや競走の楽しさを味わうことができるようになる。 * 武道・ダンスに親しみ、各クラスで発表する。
3 学期	⑩男女 球技選択 ⑪1年間の総括と評価	* チームの課題や自分の課題に応じて技能を高め作戦を生かした攻め方守り方の展開したゲームができるようになる。 * 関心・意欲・態度、思考・判断、運動技能、知識・理解の観点から総合的に判断して評価する。

令和5年度

「音楽Ⅰ」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	芸術	単位数	2
学科	全学科	学年・組	1年(選択制)
使用教科書	Tutti+ (トゥッティ プラス) (教育出版)		
副教材	なし		

「音楽Ⅰ」とはこんな科目です(科目の概要と学習目標)

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育てる。

授業の進め方

中学校における音楽の基礎・基本の学習をもとに、歌唱・器楽・鑑賞の活動を通して、作曲家・カテゴリー・ジャンルなどを幅広く捉えた学習をします。ICTを活用した学習を基本とし、ワークシート等を活用した学習及び実技の習得に向けた実践的な活動を個人やグループなど様々な形態で学習をします。筆記テスト及び実技テスト、創作課題やレポートなどを実施します。

「音楽Ⅰ」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	・曲想と音楽の構造や 文化的・歴史的背景 などの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、 歌唱、 器楽、 創作で表している。	・ワークシート ・実技試験 ・筆記試験 ・創作作品 ・発表やプレゼンテーション ・話合いでの発言 ・活動時の観察 ・自己評価や相互評価 ・ポートフォリオ
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、 それらの働きを感じながら、 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、 どのように表すかについて表現意図をもったり、 音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	

以上の事項を総合的に判断し評価する。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学 期	学習項目	学習の内容・目標 ○歌唱教材 □器楽教材 ◇創作教材
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ●オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> -未知なる音楽の世界を求めて- ●イメージをもって歌おう <ul style="list-style-type: none"> -「夏の思い出」のヒミツを手掛かりに- ●日本歌曲を歌おう <ul style="list-style-type: none"> -言葉とフレーズの関わりに着目して- ●言葉を生かして旋律をつくろう <ul style="list-style-type: none"> -日本語の言葉の特性に基づいて- ●旋律に合う和音を選ぼう-和音、和声- ●西洋音楽の源流を耳でたどろう <ul style="list-style-type: none"> -中世・ルネサンスの音楽- ●歌の旅に出よう I <ul style="list-style-type: none"> -イタリアの民謡や歌曲- ●1学期の音楽学習のまとめ 	<p><u>【歌唱】</u> ○校歌 ○優しいあの子 他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二部合唱を楽しみ、味わい高校の音楽学習への意欲をもつ。 <p><u>【歌唱】</u> ○夏の思い出 ○この道 ○浜辺の歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲に対する自己のイメージや他者の表現に共感したりする。 ・日本語の抑揚や間、語感、歌詞としてのまとまりが旋律の流れやフレーズを意識する。 <p><u>【創作】</u> ◇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の言葉の特性に関心をもち旋律をつくる。 ・和音、和声を学習し、創作した旋律に合う和音を選ぶ。 <p><u>【鑑賞】</u> ○グレゴリオ聖歌 ○オルガヌム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽についてよさや美しさを自ら味わって聴く。 <p><u>【歌唱】</u> ◆イタリア語に挑戦！ ○我が太陽 ○Caro mio ben</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語の言葉の特性と旋律やリズム、曲の構成などとの関わりに関心をもち、表情豊かに歌う。 <p>《1学期のまとめ》筆記試験、実技試験</p>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ●古の音楽に思いをはせよう <ul style="list-style-type: none"> -雅楽、悠久の響き- ●郷土の音楽に親しもう <ul style="list-style-type: none"> -三線の響きに声をのせて- ●アンサンブルを楽しもう <ul style="list-style-type: none"> -リコーダーかギターを選択して- ●オーケストラの魅力を探ろう <ul style="list-style-type: none"> -二つの旋律から広がる音楽- ●2学期の音楽学習のまとめ 	<p><u>【鑑賞】</u> ◆古の音楽に思いをはせよう ◆日本音楽史</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Review 越天楽 □ ○能「安宅」 <ul style="list-style-type: none"> ・雅楽の楽器の音、色管弦の響きに関心をもち、そのよさや美しさを自ら味わって聴く。 <p><u>【器楽】</u> ◆琉球史 □ていんさぐぬ花 □安里屋コタ 他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三線の弾き方や発声法などの基礎から学ぶ。 <p><u>【器楽】</u> □ペツォールトのメヌエット □いつも何度も □Jupiter 他</p> <p>*リコーダー-またはギター(ウクレレ)のどちらかを選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の奏法を身に付け、技能の習熟度に応じた楽曲でアンソブール活動の楽しさを味わう。 ・◆Start Up ! Playing the Recorder/Guitar <p><u>【鑑賞】</u> ◆オーケストラの魅力を探ろう ○バレエ音楽「ボレロ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な楽器の音色や響き、またボレロのリズムなどそのよさや美しさを自ら味わって聴く。 <p>《2学期のまとめ》筆記試験、実技試験</p>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ●名曲プロゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> -さまざまな時代のピアノ曲を聴こう- ●世界のさまざまな音楽の魅力 I <ul style="list-style-type: none"> -世界の楽器の音- -世界の声の音楽- ●コンサートを開こう <ul style="list-style-type: none"> -音楽Iのまとめとして- 	<p><u>【鑑賞領域】</u> ◆名曲プロゼンテーション「さまざまな時代のピアノ曲を紹介しよう」 ○ピアノ・ソナタ第23番「熱情」 ○革命 ○鐘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介文を使って時代や作曲者の違いによる音楽の特徴を感じ取りながら曲や演奏について根拠をもって批評する。 <p><u>【器楽領域】</u> 【鑑賞領域】 ◆アジアのさまざまな音楽(楽器・声)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○モリンホール(馬頭琴)の音楽 ○アルワー(二胡)の音楽 ○ケチャ ○パンツリ ○アリラン ○茉莉花 他 <ul style="list-style-type: none"> ・諸民族の楽器と日本の楽器や声を比較し、音楽文化の固有性や共通性を考える。 <p>《♡コンサートを企画しよう♡》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽Iで取り扱った歌唱教材 □音楽Iで取り扱った器楽教材 ◇それぞれがつくった創作作品

備考

- ・学習ワークシートやプロゼンテーション(自作教材)など視覚的教材を使用する。また、調べ学習や探究学習として、タブレット等個人端末を活用する。

令和5年度

「郷土の芸能」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	芸術	単位数	2
学科	アグリフード科 ライフスキル科	学年・組	3年/AT 3年/AT(保育・園芸コース)
使用教科書	なし		
副教材	なし		

「郷土の芸能」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

八重山古典民謡は、かつての琉球王朝の宮廷音楽として発展してきた。琉球古典音楽とは違う独特の特色がある八重山の文化的遺産としての八重山古典民謡の習得を主とし、三線の弾き方や発声法などの基礎から学ぶ。歌詞が方言で使われていることから、その意味・内容、その歌に関わる歴史的背景について学習する。

授業の進め方

- ・毎時間の授業課題を Teams で確認し練習に取り組む。また、タブレット端末を活用して、練習動画を参照したり様々な形式の楽譜を選択するなど、個々の実態にあった練習方法で取り組む。
- ・一斉または個別に適宜指導し、技能の向上を目指す。
- ・学習内容の理解や定着を図るために、フォームズを活用し振り返りをする。

「郷土の芸能」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	三線の構造や文化的・歴史的背景との関りを知り、曲想と楽器の音色や奏法との関りについて理解する。また、ふさわしい奏法や技能を身に付ける。	
思考・判断・表現	音楽が形作っている要素や要素同士の関わりが分かり、自分の考えや思いなど自己のイメージをもって音楽表現を工夫し演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・筆記テスト ・実技テスト ・発表会 ・活動時の観察 ・振り返り
主体的に学習に取り組む態度	音楽の構造や文化的・歴史背景との関りに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に取り組む。	

以上の事項を総合的に判断し評価する。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	オリエンテーション 三線の基礎項目① 練習曲①（ていんさぐぬ花） 練習曲②（安里屋ユンタ） 練習曲③（でんさ節） 八重山の祭りと芸能について①	<ul style="list-style-type: none"> ・三線の歴史や各部の名称を覚える。 ・線の調弦や工工四の読み方について理解する。 ・三線の音階について理解する。 ・ていんさぐぬ花の歌詞の意味について理解する。 ・アンサンブルを通して、響きを味わいながら演奏する。 ・2つの安里屋ユンタについて、それぞれの違いや成り立ちを学ぶ。 ・安里屋ユンタの歌詞の意味について理解する。 ・でんさ節の歌詞の意味について理解する。
2 学期	練習曲④ (鶯の鳥節) アンサンブル（西洋楽器と） 卒業演奏会に向けて①	<ul style="list-style-type: none"> ・鶯の鳥節の歌詞の意味について理解する。 ・比較的ポピュラーな曲を通して、三線や民謡音楽などの発展を学ぶ。
3 学期	卒業演奏会に向けて② 練習曲⑤（月ぬ美しや）	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの演奏発表をきちんとした態度で聴いたり、意欲的に発表に取り組む。 ・一年間に培った様々な技能を有効に活かし、表現する。 ・二揚調子について知る。 ・月ぬ美しやの歌詞について学ぶ。

備考

- ・「沖縄三線で歌おう（童謡・唱歌）」（ドレミ楽譜出版社）
- ・「八重山のわらべうた」（東嵩西のり子）
- ・「これだけは知っておきたいよね おきなわのこと（沖縄歴史教育研究会）
- ・「日本復帰 50 年 昔・今・未来～沖縄のこと考えてみませんか～」（沖縄歴史教育研究会）

令和5年度

「 美術Ⅰ 」 シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	芸術	単位数	2
学 科	全学科	学年・組	1年(選択制)
使用教科書	高校生の美術Ⅰ(日本文教出版株式会社)		
副教材	なし		

「美術Ⅰ」とはこんな科目です(科目の概要と学習目標)

美術の幅広い創造活動を通して、美術的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

授業の進め方

- 見たものや、想像したものを色、形等で表現していく。
- 授業の際の心構え：説明をよく聞き、与えられた時間内で課題を仕上げていく。

「美術Ⅰ」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 色彩学・配色・デザイン 表現形式の特性を生かし、形体、色彩等を工夫して創造的な表現を練る。 	制作課題 定期試験
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成すること。 	ワークシート 定期試験
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、主題を期限内に仕上げること。 協調性を持ち、仲間と意見を交わしながら作品を仕上げること。 	授業観察 鑑賞プリント
すべてを提出し評価する。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学 期	①デッサン ②切り絵 ③色彩学 ④立体造形	①静物、校内風景デッサン ②切り絵アート ③色相、暖色と寒色 ④校内自然物制作
2 学 期	①色彩学 ②デザイン ③壁画デザイン	①色相、明度、彩度 ②（1）校内行事ポスター ③ステンドガラス
3 学 期	①デッサン ②版画 ③立体造形	①人物のデッサン ②消しゴムはんこ ③ライティングアート

備考

令和5年度

「保育音楽Ⅰ」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	芸術	単位数	2
学科	ライフケースキル科	学年・組	2年/AT(園芸・保育コース)
使用教科書	なし		
副教材	なし		

「保育Ⅰ」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

保育士に必要な音楽の下記の基礎知識と技能を修得することに努め、保育検定4級の取得を目指す。

1. 楽譜を読むために必要な知識（音楽理論）・技能を高める。
2. 歌やピアノを演奏するための必要な技能や表現力を高める。
3. 乳児や園児の発達段階を理解し、生活との関わりを通して音楽の楽しさ、喜びを適切に指導できる基礎的な力を身に付ける。

授業の進め方

- ・各自のタブレット端末を使用し、毎時間の授業課題をTeamsで確認後個々の練習課題に取り組む。
- ・「保育のかんたんピアノ伴奏(ひかりのくに)」を使用し、ピアノや歌の技能を高める。また、季節の歌や諸行事の歌など設定保育のなかで活用できる技能(ピアノや歌)を習得する。
- ・一斉または個別に適宜指導する。

「保育音楽Ⅰ」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	楽曲に表記された音楽用語を理解し、正しく演奏することができる。	・楽典プリント ・実技試験
思考・判断・表現	乳児や園児の発達段階を理解し、その発達段階に応じて表現を工夫することができる。	・筆記試験
主体的に学習に取り組む態度	知識や技能の向上をめざし、練習方法を工夫したり個々の学習課題を設定したり、自ら考えて取り組むことができる。	・自己評価や相互評価 ・ポートフォリオ

以上の事項を総合的に判断し評価する。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学 期	学習項目	学習の内容・目標
1 学 期		<p>年間を通して、下記の学習に取り組み、学期ごとに筆記試験と実技試験、表現技能試験を行う。</p> <p>♪ちょうちょ ♪こいのぼり ♪かえるの合唱 ♪おかあさん ♪あめふりくまのこ 他</p>
2 学 期	<p>「歌唱」 (季節や諸行事にあわせた歌) 「器楽」(ピアノ) 「器楽」(簡易楽器や手作り楽器) 「身体表現」(手話ソング)</p>	<p>年間を通して、下記の学習に取り組み、学期ごとに筆記試験と実技試験、表現技能試験を行う。</p> <p>♪線路は続くよどこまでも ♪ゆうやけこやけ ♪とんぼのめがね ♪きらきら星 ♪クリスマスソング 他</p>
3 学 期		<p>年間を通して、下記の学習に取り組み、学期ごとに筆記試験と実技試験、表現技能試験を行う。</p> <p>♪お正月 ♪幸せなら手をたたこう ♪大きな古時計 ♪数字のうた ♪一年生になった 他</p>
備考		

令和5年度

「保育音楽Ⅱ」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	芸術	単位数	2
学科	ライフケースキル科	学年・組	3年/AT(保育・園芸コース)
使用教科書	なし		
副教材	なし		

「保育Ⅱ」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

保育音楽Ⅰで学んだことを基に、保育技術の修得に努める。

1. 歌やピアノのレパートリーを増やし、演奏技術を高める。
2. 歌やピアノを演奏するための必要な技能や表現力を高める。
3. 乳児や園児の発達段階を理解し、生活との関わりを通して音楽の楽しさ、喜びを適切に指導できる基礎的な力を身に付ける。

授業の進め方

- ・各自のタブレット端末を使用し、毎時間の授業課題を Teams で確認後個々の練習課題に取り組む。
- ・「保育のカンタンピアノ伴奏(ひかりのくに)」を使用し、ピアノや歌の技能を高める。また、季節の歌や諸行事の歌など設定保育のなかで活用できる技能(ピアノや歌)を習得する。
- ・一斉または個別に適宜指導する。

「保育音楽Ⅱ」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	楽曲に表記された音楽用語を理解し、正しく演奏することができる。	・楽典プリント ・実技試験
思考・判断・表現	乳児や園児の発達段階を理解し、その発達段階に応じて表現を工夫することができる。	・筆記試験 ・保育設定における実践課題試験
主体的に学習に取り組む態度	知識や技能の向上をめざし、練習方法を工夫したり個々の学習課題を設定したり、自ら考えて取り組むことができる。	・自己評価や相互評価 ・ポートフォリオ

以上の事項を総合的に判断し評価する。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期		<p>年間を通して、下記の学習に取り組み、学期ごとに筆記試験と実技試験、表現技能試験を行う。</p> <p>♪ちょうちょ ♪こいのぼり ♪かえるの合唱 ♪おかあさん ♪あめふりくまのこ</p> <p style="text-align: right;">他</p>
2 学期	<p>「歌唱」 (季節や諸行事にあわせた歌) 「器楽」(ピアノ) 「器楽」 (簡易楽器や手作り楽器) 「身体表現」(手話ソング) *「リトミック」 *わらべ歌 *「ハーモニカ」、「手袋シアター」制作</p>	<p>年間を通して、下記の学習に取り組み、学期ごとに筆記試験と実技試験、表現技能試験を行う。</p> <p>♪線路は続くよどこまでも ♪ゆうやけこやけ ♪とんぼのめがね ♪きらきら星 ♪クリスマスソング</p> <p style="text-align: right;">他</p>
3 学期		<p>年間を通して、下記の学習に取り組み、学期ごとに筆記試験と実技試験、表現技能試験を行う。</p> <p>♪お正月 ♪幸せなら手をたたこう ♪大きな古時計 ♪数字のうた ♪一年生になった</p> <p style="text-align: right;">他</p>

備考

- ・「保育のカンタンピアノ伴奏(ひかりのくに)」
- ・「手袋シアター(ナツメ社)」
- ・「ハーモニカ(ひかりのくに)」
- ・「沖縄三線で歌おう(童謡・唱歌)」(ドレミ楽譜出版社)
- ・「八重山のわらべうた」(東嵩西のり子)

令和5年度

「工芸Ⅰ」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	芸術	単位数	2 単位
学 科	ライフスキル科	学年・組	2 年 4 組
使用教科書	工芸Ⅰ（日本文教出版）		
副教材			

「工芸Ⅰ」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

題材や技法の基本を身につけ、その後、個性を生かして工芸作品を制作する。

工芸を愛好する気持ちや美術工芸文化を大事にする態度、豊かな感性を身につける。

授業の進め方

*授業形態

実技実習を主に、座学を行う。

*授業の際の心構え

授業テーマに沿って、素材の追加と材料の手配等は、各自で大いに工夫して下さい。

各課題には締め切りがあります。厳守して下さい。

「工芸Ⅰ」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
①知識・技能	創造的な工芸の制作をするために必要な知識と技能を身に付けている。	小テスト 制作課題
②思考・判断・表現	工芸や工芸の伝統と文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。 感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、政策の構想を練って、表現方法を工夫している。	制作課題 レポート
③主体的に学習にとりくむ態度	工芸の創造活動の喜びを味わい、工芸に関心を持ち、主体的に創造活動に取り組んでいる。 準備、後片付けを主体的に行ってている。	出席状況 授業態度 制作課題

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①工芸ガイダンス ②織り基礎（コースター）	工芸について基礎知識を学ぶ。工芸館を見学する。 織りの道具を使用し、糸繰り、整経、仮縫通し、巻きこみなどを行う。
2 学期	①織り基礎（コースター） ②染色基礎	タテ糸を機にのせる。 ヨコ糸を準備し、織る。 植物染料で布や糸を染める。
3 学期	①染色、糸準備	植物染料で糸の染色を行う。糊つけ、緒からの糸巻き。

備考

令和5年度

「工芸Ⅱ」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	芸術	単位数	2
学 科	ライフスキル科	学年・組	3年4組
使用教科書	工芸Ⅱ（日本文教出版）		
副教材			

「工芸Ⅱ」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

題材や技法の基本を身につけ、その後、個性を生かして工芸作品を制作する。

工芸を愛好する気持ちや美術工芸文化を大事にする態度、豊かな感性を身につける。

授業の進め方

*授業形態

実技実習を主に、座学を行う。

*授業の際の心構え

授業テーマに沿って、素材の追加と材料の手配等は、各自で大いに工夫して下さい。

各課題には締め切りがあります。厳守して下さい。

「工芸Ⅱ」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
工芸への 関心・意欲・態度	工芸の創造活動の喜びを味わい、工芸や工芸の伝統と文化に に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	授業態度 出席状況
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、心豊かな発想をし、よさや美しさなどを考え制作の構想を練っている。	制作課題
創造的な技能	創造的な工芸の制作をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	制作課題
鑑賞の能力	工芸や工芸の伝統と文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	レポート

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①糸の染色 ②タテ糸準備	タテ糸、ヨコ糸を植物染料で染める。 染色した糸を糸縒り、整経する。
2 学期	①織り ②袋物製作 ③ショールを織る	機にかける作業を行い、準備した糸を機で織る。 織った布を使用し、袋物など使える物を製作する。 ショールを織る。
3 学期	①植物纖維を編む ②まとめ	月桃等の纖維を使用し、コースターなどを編む。 これまで学んだことをまとめる。

備考

令和5年度

「構成デザイン」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	芸術	単位数	2 単位
学 科	ライフスキル・アグリフード科	学年・組	3 年 1・4 組 AT (選択制)
使用教科書	なし		
副教材	なし		

「構成デザイン」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

調理実習や被服実習を行うときに必要な美的感覚や色彩感覚を身につける。

食材を粘土やスケッチなどで表現し、制作する美しさや喜びを感じ、創造活動を通して美術体験を豊かにし、感性を高め、発想・構想の技能や表現能力を身につける。

授業の進め方

・授業形態

実技実習を主に、作品を仕上げ、展示・鑑賞する。

・授業の際の心構え

授業テーマに沿って、素材の追加と材料の手配等は、各自で大いに工夫して下さい。

各課題には締め切りがあります。厳守して下さい。

「構成デザイン」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
美術への 関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	授業態度 出席状況
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	制作課題 定期試験
創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、表現方法を工夫して表している。	制作課題 定期試験
鑑賞の能力	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	レポート 定期試験

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	自然物（食材）の描写 ①見て描く ②リアル描写 デザイン構成 ①構成の原理 ②制作 ③形の変容	①描写練習 ②自然物をモチーフとした写実絵画表現 ①構成の原理の理解 ②デザイン画を元に、立体造形をする。 ③パッケージを変形させ、デザイン表現
2 学期	デザインの技法 ①様々なデザインの技法 ②効果的な配色 P O P制作 ①ロゴ制作 ①季節メニュー制作	①様々なデザインの技法・表現 ②効果的な配色の表現 ①学習したデザインを使ってカフェをイメージした店名のロゴ制作 ①クリスマスメニュー制作
3 学期	構成デザインのまとめ ①制作活動の記録とまとめ ②発表資料作成 ③発表	①制作活動の記録、資料の整理とまとめ ②発表資料、原稿作成 ④発表練習・発表

備考

令和5年度 論理・表現Ⅰ シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

科目名	論理・表現Ⅰ	単位数	2単位	担当者	前栗蔵 歩夢 印
学 科	全学科	学年・組	2年（全クラス）		
使用教科書	VISTA Logic and Expression I (三省堂)				
副教材	VISTA Logic and Expression I サブノート (三省堂)				

1. 学習の目標

話すこと（やりとり）、話すこと（発表）、書くことの3技能に焦点を当て、以下の能力を育成することを目指す。

- ①日常的な話題について、基本的な語句や文法を用いて、自分の意見や主張を論理の展開や構成を工夫しながら、英語で話して伝え合うことができる。
- ②日常的な話題について、基本的な語句や文法を用いて、自分の意見や主張を論理の展開や構成を工夫しながら、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、英語で話して伝えることができる。
- ③日常的な話題について、基本的な語句や文法を用いて、自分の意見や主張を論理の展開や構成を工夫しながら、英語で文章を書いて伝えることができる。

2. 授業の進め方

基本的な語句や文法事項を確認し、練習問題で理解を深めたうえで、英語での自己表現活動を行う。
また、ALTとのチームティーチングを活用しながら、コミュニケーション能力の向上を図る。

3. 課題・補修について

定期考査およびその他課題等において、理解が不十分と判断された生徒に対して補習指導を行う。

4. 評価の観点、評価基準および評価の方法について

【評価の観点・基準】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	基本的な語句や文法事項、論理の構成や展開に関する事項、意見や主張を効果的に伝える表現を理解することができる。	日常的な話題について、自分の意見や主張を様々な活動を通して、既習事項を活用しながら話したり、書いたりして伝えることができる。	スピーチやプレゼンテーションなどの活動に主体的に取り組み、自分の意見や主張を話したり、書いたりして伝えようとする姿勢が見られる。

【評価方法】

以上の評価の観点・評価基準に基づき、定期考査（中間・期末）、提出物、授業中の発表・態度、出席状況、小テストを総合的に評価する。

5. 学習内容

(L=LESSON)

課	タイトル	主な活動	主な言語材料	主な言語の働き	主な言語の使用場面	配当時間
Let's Start	①アルファベット ②品詞 ③つなぎ言葉ランキング ④語順	話す・書く	アルファベット／語／文構造／接続詞／前置詞			4
L1	Bouldering? How nice! ボルダリング? いいね!!	やり取り	現在形 (be動詞／一般動詞)	共感を示す	学校生活／対話・インタビュー	2
L2	Famous People この人は何をした人?	書く・発表	過去形 (be動詞／一般動詞)	発表の始めと終わり	学校生活／スピーチ	3
L3	Aquarium Adventure 今、クラゲに夢中だよ!	書く	現在進行形／過去進行形	許可を求める	日常生活／LINE	3

L4	My Summer Plan JAXAへ行くよ	やり取り	未来表現(will/be going to)	誘う・提案する	日常生活／対話・インタビュー	2
L5	UFO Sightings キミはUFOを見たことが あるか？！	書く・発表	現在完了形①（経験／継続）	聴衆を引きつける	日常生活／スピーチ	3
L6	Homestay ホームステイにチャレンジ！	書く	現在完了形②（完了／現在完了進行形）	メールのあいさつ	学校生活／電子メール	3
L7	Which is faster? いろいろなものを比べる と…	やり取り	比較（比較級／最上級／as…as ~）	驚く	日常生活／対話	2
L8	Great Inventions あなたが選ぶすぐれた発明品は？！	書く・発表	助動詞① (can/may)	理由を述べる	日常生活／スピーチ	3
L9	Save the Earth ホタルが住める地球を！	書く	助動詞② (must/have to/should)	事実を伝える	地域での活動／ホームページ	3
L10	Masterpiece 芸術はこころの栄養!!	やり取り	受動態	同意する	日常生活／対話	2
L11	My Future Job あなたは将来どんな人？	書く・発表	不定詞①（名詞的用法）／動名詞	順序を述べる	学校生活／スピーチ	3
L12	World Heritage モン・サン・ミシェルへの旅	書く	不定詞②（副詞的用法／形容詞的用法）	出典・引用を示す	社会生活／ホームページ	3
L13	Pictogram トイレはどこ？	やり取り	分詞（現在分詞／過去分詞）	図表を説明する	日常生活／対話	2
L14	Cool Japan ふろしきって、カッコイイね！	書く・発表	関係代名詞	例を挙げる	社会生活／プレゼンテーション	3
L15	What's SDGs? 地球上のすべての人が幸せに暮らすために！	書く	仮定法 (If ~ / I wish ~)	意見を述べる	本・新聞・雑誌／意見・感想文	3
〔付録〕 ①表現語彙集 ②ローマ字表 ③辞書の使い方 ④否定文と疑問文のつくり方 ⑤変化形のつくり方 ⑥句読法 ⑦不規則動詞活用表					配当時間合計	44

令和5年度

「英語コミュニケーションⅠ」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3単位
学科	全学科	学年・組	1年
使用教科書	VISTA English Communication I (三省堂)		
副教材	• VISTA English Communication I WORK BOOK (三省堂)		

目標

英語での「聞く」「読む」「話す」「書く」という4技能を学習し、コミュニケーション能力を総合的に身につける。

①4技能を身につける。

「聞く」：英語を聞いて、内容を聞き取り、情報や考えなどを理解することができる。

「読む」：英語を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。音読ができる。

「話す」：情報や考えなどについて、聞き手に正しく伝えることができる。

「書く」：情報や考えなどについて、読み手にわかりやすく、表現することができる。

②言語や文化の理解を深め、基礎基本の定着を図る。

③コミュニケーション能力を身につける。

*授業形態：習熟度別クラス・ALTを活用したチームティーチング授業の実施

*授業の際の心構え：学習用具（筆記用具・教科書、ワークブック）をきちんと揃えて授業に臨むこと。
間違いを恐れず、授業に積極的に参加すること。

評価観点及び方法

- 授業態度（学習用具・積極性）
- 出席状況（欠課・遅刻）
- 言語活動（発言・応答・発表）
- 考査（定期テスト）
- 提出物（課題・ワークブック）

以上の事項を総合的に判断し評価する。

評価は、「知識・技能（技術）」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」（3観点）を
A：十分理解できる、B：おおむね満足できる、C：努力を要する、で表します。さらに、3観点を
次の割合で点数化し、5段階評価を行います。

評価の観点	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比重	4	3	3

令和5年度

「リーディングスキルⅠ」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	リーディングスキルⅠ	単位数	2単位
学科	全学科	学年・学科	2年AS
使用教科書	なし		
副教材	英語総合演習テキスト Streams TEXT I (株式会社 増進堂・受験研究社)		

目標

- ①基礎的、基本的、発展的な文法事項を習得し、それらを駆使して英語の長文を理解することができる。
- ②単語・熟語の発音やイントネーションを習得し、音読や暗唱をすることができる。
- ③習得した知識を基にして英語で自己表現をすることができる。

評価の観点	内 容	評価方法	比重
知識・技能	英語の文の構成に対する知識を深め、習得したことを用いて適切に表現することができるか。	考查 提出物(ワークシート等)	4
思考力・判断力・表現力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しているか。また英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えているか。	言語活動(発言・応答) ワークシート等	3
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。	言語活動(発言・応答・発表・積極性)、提出物(ワークシート等)	3

【学習の計画】

学期	学習項目・目標	学習の内容
1 学期	<p>Unit 1 「More than a Pet」 Unit 2 「Machu Picchu」 Unit 3 「Earth」 Unit 4 「Every Drop Counts」</p> <p>各題材における内容、文法、単語などをしっかりと理解し、それらを用いて自己表現をすることができます。</p>	<p>(内容)</p> <p>話題：日常（語数：112 words） • 特別な種類の犬とはどんな犬のこと？</p> <p>話題：地理（語数：126 words） • 世界遺産マチュピチュとは。</p> <p>話題：科学（語数：127 words） • 私たちの住む地球はどんな星？</p> <p>話題：環境（語数：125 words） • 大切な水。その節約にはどのような方法があるだろうか。</p> <p>(文法・コミュニケーションテーマ) • 英語の基本的な語順 第1文型 (S+V) 第2文型 (S+V+C) 第3文型 (S+V+O) 第4文型 (S+V+IO+DO) 第5文型 (S+V+O+C) • 数の言い方（数・小数・分数） • 時制①（現在時制と過去時制） • 数の言い方（年・日付・時刻） • 時制②（現在進行形、過去進行形、現在完了） • 数の言い方（金額・温度・長さ） • 助動詞（can/must/may/should/will） • あいさつ</p>

2 学期	<p>Unit 5 「Blood Type」 Unit 6 「Basketball」 Unit 7 「Wilson Bentley」 Unit 8 「An Ideal Match」 Unit 9 「Thank You So Much」 Unit 10 「When a Big Desert Gets Bigger」</p> <p>各題材における内容、文法、単語などをしっかりと理解し、それらを用いて自己表現をし、相手に伝えことができる。</p>	<p>(内容)</p> <p>話題：日常（語数：148 words） • 血液型と性格は本当に関係がある？</p> <p>話題：スポーツ（語数：151 words） • アメリカの3大スポーツの1つバスケットの魅力とは。</p> <p>話題：日常（語数：131 words） • 雪の結晶を発見した人物について。</p> <p>話題：人生（語数：199 words） • ある夫婦に意外な結末が。その結末とは。</p> <p>話題：日常（語数：165 words） • Hiroko の誕生日。Jackとの会話。</p> <p>話題：環境（語数：150 words） • 砂漠が拡大するとどうなるのだろう？</p> <p>(文法・コミュニケーションテーマ) • 受動態（be+過去分詞） • 自己紹介 • 不定詞（名詞用法・形容詞用法・副詞用法） • 電話 • 動名詞（～ing） • 買い物 • 分詞（現在分詞・過去分詞） • 道案内 • いろいろな文の形 (be 動詞で始まる命令文・禁止の命令文・Let's で始める命令文) • 海外旅行（入国審査） • 比較①（比較級・最大級） • ファーストフード店で</p>
3 学期	<p>Unit 11 「Australia」 Unit 12 「Making a Wish」</p> <p>各題材における内容、文法、単語などをしっかりと理解し、それらを用いて自己表現をし、相手に伝えることができる。また、ある一定程度の英文を読み、概要を把握することができる。</p>	<p>(内容)</p> <p>話題：地理（語数：179 words） • オーストラリアはどんな国？</p> <p>話題：文化（語数：171 words） • 欧米ではどんな時に願い事をするのだろう？</p> <p>(文法・コミュニケーションテーマ) • 比較②（as…as~、…times as ~as…） • 授業で • 関係代名詞・病院で</p>

備考

適宜、ALTとのTTを行う。（コミュニケーション活動）

令和5年度

「リーディングスキル」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	リーディングスキル	単位数	2単位
学科	全学科	学年・組	3年AS
使用教科書	なし		
副教材	英語総合演習テキスト Streams TEXT 1 (株式会社 増進堂・受験研究社)		

目標

- ①基礎的、基本的、発展的な文法事項を習得し、それらを駆使して英語の長文を理解することができる。
- ②単語・熟語の発音やイントネーションを習得し、音読や暗唱をすることができる。
- ③習得した知識を基にして英語で自己表現をすることができる。

*授業形態：少人数クラス

*授業の際の心構え：学習用具（筆記用具・辞書など）をきちんと揃えて授業に臨むこと。

間違いを恐れず、積極的に授業に参加すること。

評価の観点	内 容	評価方法
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。	言語活動（発言・応答・発表・積極性）、提出物（ワークシート等）
外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えているか。	言語活動（発言・応答）
外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解しているか。	考查 提出物（ワークシート等）
英語の文法事項の知識・理解	英語の文の構成に対する知識を深め、習得したことを用いて適切に表現することができるか。	考查 提出物（ワークシート等）
以上の事項を総合的に判断し評価する。		

【学習の計画】

学期	学習項目・目標	学習の内容
1 学 期	<p>Unit 1 「More than a Pet」 Unit 2 「Machu Picchu」 Unit 3 「Earth」 Unit 4 「Every Drop Counts」</p> <p>各題材における内容、文法、単語などをしっかりと理解し、それらを用いて自己表現をすることができる。</p>	<p>(内容) 話題：日常（語数：112 words） • 特別な種類の犬とはどんな犬のこと？ 話題：地理（語数：126 words） • 世界遺産マチュピチュとは。 話題：科学（語数：127 words） • 私たちの住む地球はどんな星？ 話題：環境（語数：125 words） • 大切な水。その節約にはどのような方法があるだろうか。 (文法・コミュニケーションテーマ) • 英語の基本的な語順 第1文型 (S+V) 第2文型 (S+V+C) 第3文型 (S+V+O) 第4文型 (S+V+IO+DO) 第5文型 (S+V+O+C) • 数の言い方（数・小数・分数） • 時制①（現在時制と過去時制） • 数の言い方（年・日付・時刻） • 時制②（現在進行形、過去進行形、現在完了） • 数の言い方（金額・温度・長さ） • 助動詞（can/must/may/should/will） • あいさつ </p>
2 学 期	<p>Unit 5 「Blood Type」 Unit 6 「Basketball」 Unit 7 「Wilson Bentley」 Unit 8 「An Ideal Match」 Unit 9 「Thank You So Much」 Unit 10 「When a Big Desert Gets Bigger」</p> <p>各題材における内容、文法、単語などをしっかりと理解し、それらを用いて自己表現をし、相手に伝えることができる。</p>	<p>(内容) 話題：日常（語数：148 words） • 血液型と性格は本当に関係がある？ 話題：スポーツ（語数：151 words） • アメリカの3大スポーツの1つバスケットの魅力とは。 話題：日常（語数：131 words） • 雪の結晶を発見した人物について。 話題：人生（語数：199 words） • ある夫婦に意外な結末が。その結末とは。 話題：日常（語数：165 words） • Hiroko の誕生日。Jackとの会話。 話題：環境（語数：150 words） • 砂漠が拡大するとどうなるのだろう？ (文法・コミュニケーションテーマ) • 受動態 (be + 過去分詞) • 自己紹介 • 不定詞（名詞用法・形容詞用法・副詞用法） • 電話 • 動名詞 (~ing) • 買い物 • 分詞（現在分詞・過去分詞） • 道案内 • いろいろな文の形 (be 動詞で始まる命令文・禁止の命令文・Let's で始める命令文) • 海外旅行（入国審査） • 比較①（比較級・最大級） • ファーストフード店で </p>
3 学 期	<p>Unit 11 「Australia」 Unit 12 「Making a Wish」</p> <p>各題材における内容、文法、単語などをしっかりと理解し、それらを用いて自己表現をし、相手に伝えることができる。また、ある一定程度の英文を読み、概要を把握することができる。</p>	<p>(内容) 話題：地理（語数：179 words） • オーストラリアはどんな国？ 話題：文化（語数：171 words） • 欧米ではどんな時に願い事をするのだろう？ (文法・コミュニケーションテーマ) • 比較② (as…as~、…times as ~as…) • 授業で • 関係代名詞・病院で </p>

備考

適宜、ALT を活用する。（コミュニケーション活動）

令和5年度

「中国語基礎」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	外国語	単位数	1~2単位
学科	グリーンライフ科、フードプロデュース科	学年・組	3学年
使用教科書	『しっかり初級中国語』石田友美著 白水社		
副教材	新聞・DVD・ビデオ		

「中国語基礎」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

中国語に対する興味・関心を高めながら、発音を中心とした中国語の基礎を身につけ、日常会話の習得を目指します。

また、隣国台湾や中国の歴史、文化、生活習慣に興味・関心を持たせながら調べ学習などを通して、知識を身につけ、隣国および国際理解の考え方を育成します。さらに、島内・国際社会でも活躍できる有能な人材の育成を目指します。

授業の進め方

*授業形態

- ①外部講師（中国語）を招き学習を行います。
- ②中国語の読み書き、発音の仕方について、くり返し学習を行います。
- ③調べ学習などを行い、中国文化についての理解を深めます。

*授業の際の心構え

- ①始まりの時間を守ります。
- ②授業の始めと終わりは、あいさつをします。
- ③筆記用具、記録簿（ワークシートを綴るファイル）を準備し記入します。
- ④常に復習することが大切です。意識を持ちながら学習しましょう。
- ⑤外部講師には、学習して疑問に思ったことを積極的に質問しましょう。
- ⑥調べ学習などをします。自主的に取り組みましょう。
- ⑦定期的にレポート提出や発表会を行います。

「中国語基礎」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
关心・意欲・態度	①授業への出席状況を評価します。 ②ワークシートの記入状況を評価します。 ③興味・関心を持ち、取り組んでいるかを評価します。	・出席状況・忘れ物 ・記録簿の記入等 ・質問の回数や内

			容
思考・判断・表現	①記録簿のまとめや整理の仕方で評価します。 ②学習した言葉を発音できるかで評価します。 ③学習した言葉を読み書きできるかで評価します。 ④レポートのまとめや発表の仕方を評価します。		・記録簿の提出 ・考察やまとめ ・レポート提出 ・発表会
技能	①レポートや掲示物の作成。 ②発表の方法。		・レポートや掲示物 ・発表会
知識・理解	①定期テストを行い、知識と理解の定着を評価します。 ②記録簿の提出		・定期テスト ・記録簿の提出
以上の事項を総合的に判断し評価します。			

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①中国語の音の確認 ②日常会話の復習 ③総合会話の実践 ④中国の歌	*四声発音、音の区別、声調の組み合わせを確認させる。 *日常会話で即座に答えられるよう身につけさせる。 *日常会話ができるよう、くり返し練習する。 *ビデオ・DVD教材を取り入れて練習する。 *歌を通して、発音を身につけさせる。
2 学期	①日常会話の復習 ②総合会話の実践 ③台湾・中国の学習 ④中国の歌 ⑤年賀状、手紙の書き方	*日常会話で即座に答えられるよう身につけさせる。 *日常会話ができるよう、くり返し練習する。 *ビデオ・DVD教材を取り入れて練習する。 *台湾や中国について、地理、歴史、文化を調べ発表する。 *歌を通して、発音を身につけさせる。 *実際の文章を参考に書く練習をする。
3 学期	①日常会話の復習 ②総合会話の実践	*日常会話で即座に答えられるよう身につけさせる。 *日常会話ができるよう、くり返し練習する。 *ビデオ・DVD教材を取り入れて練習する。

備考：地域から講師を招いての授業展開になります。

対象教科・科目	単位数	学年
情報 I	2 単位	1 年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させるとともに、情報を主体的に活用しようとする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	東京書籍 新編 情報 I

2 授業展開

各クラスで行う。

3 評価の観点 評価の観点【知識・技能】、【思考・判断・表現】、【主体的に学習に取り組む態度】の割合は
40 : 30 : 30とする。

知識・技能	SNSを含むインターネットの正しい使い方を理解し、効果的な情報の収集・発信ができる。また、文書作成や表計算ソフトの実習を通して、情報技術の仕方について理解する。
思考・判断・表現	問題を解決するための方策をあらゆる視点から捉え、モデル化やシミュレーションから結果を予測し最適な方法を導き出し図・絵・プログラムなどで表現することができる。
主体的な態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

4 学習計画及び評価方法等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね らい	評価の観点	考 査 範 囲
第 1 学 期	・オリエンテーション 1章 情報で問題を解決する タイピング	4	・「情報 I」について、学習の目標や内容、学習方法、評価方法、教室の使い方を理解する。 ・情報や知識についての意味を理解する。 ・情報社会のモラル・ルール・マナーについて理解する。	・問題を発見・解決するための一連の流れを理解できる。[知]	第 1 学 期 期 末 考 査
	2章 情報を伝える	5	・「問題」とは何かを理解し、自分の問題を発見し解決のプロセスを考える。	・SNS 等で加害者や被害者にならないための対応が判断できる。[思]	
	日本情報処理検定 (Word) タイピング練習	6	・アナログとデジタルの意味について理解する。 ・2進数・10進数・16進数の相互変換ができるようになる。 ・情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。	・情報デザインの目的を理解できる。[知]	
		7	・コンピュータの基礎的な操作方法を習得し、検定問題を通して生産的な取り組みを体験する。 ・両手の全ての指を使ってタイピングができる。	・粘り強く、情報デザインの手法を利用して、作品を作ろうとしている。[態] ・タイピングで両手を使っているか。[知]	

【課題・提出物等】

- 配布プリントをファイルに綴り学期末に提出
- 各授業での作品・課題

【第1学期の評価方法】

保存ファイル、タイピング技能テスト、期末考査、学習の姿勢、提出物で評価します

第 2 学 期	3章 コンピュータを活用する Python、Scratchによるプログラミング実習 日本情報処理検定（Excel） タイピング練習	9	・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・身の回りの問題解決や行動の選択をフローチャートで表し考えることができる。	・コンピュータの演算の方法とその限界を理解できる。[知] ・AND, OR, NOT 回路の仕組みを理解できる。[知] ・分岐構造と反復構造を含んだプログラムを作成することができる。[思] ・粘り強く、プログラムを作ろうとしている。[態] ・デバッグを行い、プログラムを改善しようとしている。[態]	第 2 学 期 期 末 考 查
		10	・プログラムの基本構造を理解する。		
		11	・効果的なシミュレーションを行うことで、問題解決のサイクルと精度が高まることを理解する。		
		12	・Excel を学び、数あるデータを集計したり、図などでわかりやすく表現する方法を理解する。 ・表計算検定 3 級問題 中央揃え、列幅、表示形式、罫線、関数(SUM, AVERAGE, MAX, MIN, ROUND, ROUNDUP, ROUNDDOWN) ・キーボードを見ないで文字を打つことができる。		

【課題・提出物等】

- 1 配布プリントをファイルに綴り、学期末に提出
- 2 各授業での作品・課題

【第2学期の評価方法】

プログラミングの課題

保存ファイル、タイピング技能テスト、期末考查、エクセルの課題、学習の姿勢で評価します

第 3 学 期	情報リテラシー 動画実習 4章 データを活用する 5章 活動して提案する クラスの実態調査 プレゼンによる発表	1	・インターネットでの IP アドレスと DNS の役割を理解する。	・LAN と WAN の違いを理解できる。[知] ・欠損値や外れ値など、適切なデータの選択を判断できる。[思] ・適切なアンケートを作成することができる。[知] ・データ分析の結果を適切な表現方法で発表することができる。[思] ・グループの中でどのように活動に加わっているか。[態]	学 年 末 考 查
		2	・コンピュータウイルスの種類や被害状況、及びその対策について理解する。		
		3	・サイバー犯罪の種類と具体例を理解し、受信者のリスクや対策について理解する。 ・膨大な数のデータをどのようにまとめ、分析するかを理解する。 ・グループを作り、テーマを決めてそれについて調査する。データの収集方法と分析について実習的な学習をする。		

【課題・提出物等】

- 1 授業の中で使用する補助プリント
- 2 保存ファイル

【第3学期の評価方法】

保存ファイル、学年末考查、作品、グループ活動、学習の姿勢で評価します

【年間の学習状況の評価方法】

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習する態度」の3つの観点から評価した第1学期・第2学期・第3学期の成績を総合して年間の学習成績とします。

令和5年度

「課題研究」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	農業	単位数	3
学科	アグリフード科	学年・組	3年1組
使用教科書	①食品製造 ②微生物利用 ③野菜 ④作物 ⑤果樹		
副教材	課題解決に必要な参考書籍		

「課題研究」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「課題研究」とは、これまで学んだことをもとに、農業に関する課題を各自で設定し、その課題の解決を図る学習（調査・研究・実験・作品制作など）を通して、専門的な知識と技能の深め、総合化を図るとともに、問題を解決する能力や自発的、創造的な学習態度を育てることを目標としています。ここでは、主に野菜・果樹分野や食品製造分野に関する範囲で、疑問や興味関心のあることについて各自設定したテーマに沿った授業内容で進めていきます。

授業の進め方

*授業形態

①作物野菜加工コース、果樹加工コースの2つの班に分かれて、調査・研究・実験・作品制作などを行います。

②テーマ設定・計画・実施・まとめ・発表までを行います。

*授業の際の心構え

①授業の始めと終わりはあいさつを行います。

②常に課題意識を持ち、学習活動に取り組みましょう。

③観察や実験・実習においては、五感を十分に活用するよう心がけましょう。

④実験・実習においてはグループ単位で学習します。自主的に取り組み、共に協力して行うことを行いましょう。

⑤記録用ノートやファイルなどの記録簿は各自工夫して作成・記入して下さい。

⑥学習の主体者は生徒であり、教師は指導の助言等を行なうアドバイザー的役割です。

「課題研究」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	テーマとなる作物野菜果樹の栽培やその加工に関する基本的な知識と技能を身に付け、研究の計画、実施、評価、反省を行い、課題解決を図る能力を身に付けています。	・記録簿
思考・判断・表現	課題を設定し目的を決め、実験方法、結果、考察を行い、課題を解決しようとする能力を身に付けています。	・記録簿 ・パワーポイント

	調査・研究・実験などの結果を自分の考えや意見としてまとめることができるか評価する。	・発表原稿 ・発表会
主体的に取り組む態度	自ら疑問点または課題点を探る能力を身に付け、問題解決のための様々な方法を自ら探し、より深く理解しようとする態度を身に付けようとしている。	・記録簿 ・発表会 ・提出物 ・授業態度

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目（単元）	学習内容
1	①課題研究テーマの設定 ②研究計画 ③研究活動	①これまで学習したこととともに、各自興味関心のあるものを探だし、研究のテーマとする。 ②1年間の研究計画を立て、計画的に研究が実践できるように工夫する。 ③設定したテーマをもとに、情報収集や調査・研究・実験などを行う。
2	④研究活動の継続 ⑤研究結果のまとめと考察 ⑥レポート作成 ⑦発表準備	④1学期の研究活動を継続して進める。 ⑤研究結果を整理する。 ⑥提出用にレジュメ（短くまとめたもの）とレポート作成する。 ⑦課題研究発表会に向けて、パソコンを使用しプレゼンテーション（発表用スライド）を作成する。
3	⑧課題研究発表会 ⑨レポート提出	⑧学科全生徒及び職員を対象にプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力を養う。（優秀な研究は校内発表会の学科代表として選出する） ⑨レポートを提出する。

備考

「課題研究」はこれまでの農業学習をもとに、自分が興味・関心のあるテーマに沿って、研究計画から研究の方法や進め方、評価まで自己完結することを目標にしたものです。

研究成果よりも研究のプロセスが大切です。研究活動に主体的に取り組み、困難を乗り越え、課題対応能力や問題解決能力を身につけましょう。また、研究テーマはできるだけ地元の素材または課題などをできるだけ取り入れて取り組むことを望みます。

経営と流通 シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	1単位(35h)
学 科	アグリフード科	学年・組	3年1組(23名)
使用教科書	農業経営		
副教材			

「経営と流通」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

生産性の高い農業経営・流通を行う上で必要な知識と技術を習得させ、経済社会の発展に対応し、農業所得の向上と地域農業の発展を図ることができる能力と態度を育てる。

授業の進め方

*授業形態

座学（ワークシート、パワーポイント作成、発表 等）

*授業の際の心構え

一人ひとりが農業経営者としての意識を持つため、「〇〇をお金に変える方法」をテーマに、各自でコンセプトを決め、ワークシートにまとめパワーポイントで発表する。

「経営と流通」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	農業経営に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や役割を理解している	ワークシート 考查
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットや統計資料を活用し、農業経営に必要な上手さを収集することができる ・農業経営に関する諸課題の解決を目指し、同級生と話し合い、考えを深めることができる。 ・適切に情報を判断し、表現する創造的な能力を身につけている 	授業態度 ワークシート パワーポイント
主体的に取り組む姿勢	農業経営に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとする。	提出物、ワークシート、出席状況
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	農業経営の動向 ・我が国と世界の農業 ・農業経営の組織と運営 ・農産物の流通と市場	人間生活にとって農業の役割や自然の生態系や日本の食料生産と消費の動向とその需要について理解する。
	農業組織の運営と流通の方法 ・農業経営の主体と目標 ・農業経営組織の組み立て ・農業経営の運営	農業経営・流通の目標と意義について学ぶ。 家族経営と会社運営の違いを考える。 農業の経営組織を理解する。
2 学期	農業経営と流通 ・農業経営を取り巻く環境 ・農業経営と情報の収集 ・農業のマーケティング	環境に適応した農業の展開を考えることができる。 情報からみた経済活動を理解できる。 農業経営・流通に必要な情報を収集できる。 マーケティングとは、どういう活動かを理解する。
	農業経営・流通の会計 ・簿記の基礎 ・簿記の実際 ・原価計算	簿記の意味や要素などを理解する。 複合簿記による、基本的な取引の記帳から決算までのしくみを学ぶ。 原価計算は、経営の内部活動の記録・計算に必要であることを理解する。
3 学期	農業経営の診断と設計 ・農業経営の診断 ・農業経営の設計	農業経営・流通の診断の要素と指標について理解する。 経営診断の基準と方法について学ぶ。 経営設計の方法を理解し実際にできる。 マーケティングの活用ができる。

備考

令和5年度 栽培基礎（作物コース）シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	4単位
学 科	アグリフード科	学年・組	2年1組
使用教科書	作物		
副教材			

「栽培基礎（作物）」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

作物（イモ類、マメ類、キビ）の特性や栽培に適した環境及び栽培管理を理解し、各作物の農業経営の特徴について学ぶ。作物の栽培における技能の習熟を図る。また、本県のイモ類、マメ類、キビの栽培状況や課題を学習する。

授業の進め方

*授業形態

座学、実習

*授業の際の心構え

実習の際は実習服を着用し、安全に気を配り実習を行う。

「栽培基礎（作物）」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	作物の栽培環境における基礎的な知識を身につけ、地域に即した栽培管理について理解している。作物の栽培管理に関する基本的な技術を身につけています。	定期テスト
思考・判断・表現	作物の観察や栽培環境の調査を通して、それらの特徴や課題について思考し、それらの特徴や解決策を正しく判断し、表現できる	提出物 ワークシート
主体的に取り組む姿勢	作物生産の基礎について興味・関心を持ち、作物の育成や栽培環境について探求しようとしている。	提出物 授業態度

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	作物を取り巻く環境 <ul style="list-style-type: none"> ・作物栽培と環境 ・作物の生育と大気の環境 ・作物を取り巻く生物 栽培実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ダイズ（マメ科） ・サトウキビ（イネ科） ・ベニイモ（イモ類） ・ゴマ（ゴマ科） 	栽培環境（天気・天候・気候、大気、光、温度） 作物の生育と気象要素 害虫・益虫・根粒菌、作物の病原体、害虫の種類、雑草 ダイズの生理生態及び栽培法、作付け計画 サトウキビの生理生態及び栽培法、作付け計画 ベニイモの品種・生理生態及び栽培法、作付け計画 ゴマの生理生態及び栽培法、作付け計画
2 学期	作物の土壤環境 <ul style="list-style-type: none"> ・作物と沖縄の土壤 ・作物の養分と肥料 栽培実習 <ul style="list-style-type: none"> ・ラッカセイ（マメ科） ・サトウキビ（イネ科） ・ジャガイモ（ナス科） 	沖縄の土壤の種類と特徴 施肥・かん水・薬散 肥料の種類と性質 ラッカセイの生理生態及び栽培法、作付け計画 サトウキビの生理生態及び栽培法、作付け計画 ジャガイモの生理生態及び栽培法、作付け計画
3 学期	作物の生育と生理 <ul style="list-style-type: none"> ・成長の仕組みと管理 ・作物の繁殖 栽培実習 <ul style="list-style-type: none"> ・サトウキビ（イネ科） ・ダイズ（マメ科） ・トウモロコシ 	種子繁殖・栄養繁殖、収穫 作物の生育と収量の診断（イネ科、マメ科、イモ類） キビの生理生態及び作付け計画 ダイズの生理生態及び栽培法 トウモロコシの整理生態及び栽培法

備考

令和5年度

「 総合実習 」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	2
学 科	アグリフード科	学年・組	1 年
使用教科書	食品製造（実教出版） 農業と環境（実教出版）		
副教材	参考図書「基本のお菓子」(成美堂出版)など		

「総合実習」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

栽培分野や食品製造分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識や技術を身につけていく科目です。また、製造実習においては、食品衛生に関する知識についても指導し、安心・安全な加工品を製造することの重要性を理解させ、食品製造に携わる者としての責任感を養う。

授業の進め方

* 授業形態

主に実習を中心に授業を行います。栽培分野では、種まきや栽培方法。栽培環境と生育の関係性など、基本的な要素を学習します。また、加工に関しても、器具の名称や計量方法など、基本的な要素の習得を目標に授業を展開します。

* 授業の際の心構え

加工実習では、爪や加工服を清潔に保ち、実習に参加して下さい。

「総合実習」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	栽培及び食品製造の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業の意義や役割を理解している。実際の仕事を合理的に計画し適切に処理するとともにその成果を的確に表現する	ワークシート
思考・判断・表現	栽培及び食品製造に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。	ワークシート
主体的に取り組む態度	栽培及び食品製造に関する諸問題について関心をもち、その改善向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的、実践的な態度を身に付けている。	・提出物 ・授業態度

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目（単元）	学習内容
年間	農産物の加工 ・小麦の分類 ・実習：ロールパン	・小麦の製粉について理解させる ・小麦粉がどのように分類されているか理解させる ・使用する器具名を覚える ・分割・丸めの技術を理解する ・技術の向上に取り組む姿勢を養う ・実習室の衛生管理を積極的に取り組む
1	①食品製造の心得と総合実習について ②マフィンケーキの製造 ③ブラウニー	①オリエンテーション（授業及び実習の進め方） ②学科で生産した農作物を活用したマフィンの製造 ③学科で生産した農作物を活用したブラウニーの製造
2	④クッキーの製造 ⑤パウンドケーキの製造 ⑥秋野菜の栽培 ⑦秋冬野菜の栽培	④学科で生産した農作物を活用したクッキーの製造 ⑤学科で生産した農作物を活用したパウンドケーキの製造 ⑥農業祭に向けた秋野菜（ダイコン等）の栽培管理実習 ⑦秋冬野菜（キャベツ、レタス）などの栽培実習
3	⑧農作物の一次加工実習 ⑨まとめ	⑧イモなどの根菜類を一次加工する方法とそれらを活用した加工実習を通して6次産業についての興味・関心を高める。 ⑨学習のまとめをすることで、この科目で学んだ知識と技術の習得状況を把握し、実践的態度と学習意欲の向上を図る。

備考

令和5年度

農業と環境 シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	1 単位 (35 h)
学 科	ミックスクラス	学年・組	1 学年 全クラス
使用教科書	実教出版「農業と環境」 7実教 農業 701		
副教材			

「農業と環境」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

野菜が発芽・成長・花芽分化を行い受粉・受精した後着果するという植物の生理・生態や植物体のしくみを学習し、それを取りまく環境について理解するとともに県内で栽培されている主な野菜の栽培法、作付け体型について学ぶ。

授業の進め方

* 授業形態

座学、実習

* 授業の際の心構え

実習の際は実習服を着用し、安全に気を配り実習を行う。

「農業と環境」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	栽培実習において必要な知識、技能についての専門用語を覚え、理解している。さらに、基本的な作業・管理が確実にでき、記録として残すことができるか。	定期テスト ワークシート
思考・判断・表現	野菜の生理生態について理解し、それらを取り巻く環境について考え方適期作業を行うための知識と能力を身につけ自分の考えをまとめることができる。	ワークシート 提出物 定期テスト
主体的に取り組む姿勢	野菜を中心とした農産物生産への関心を高め、その重要性を認識し、実生活の部分での関わりを意識できるようにする	授業態度、提出物

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	野菜の特性と栽培の仕組み • 生活の中の作物 • 野菜の自然分類 • 野菜の一生と栽培 • たねと発芽・たねまき • 成長との仕組みと管理 • 野菜の繁殖と育種 • 作付け体型と作型 栽培実習（ウリ科植物） • キュウリ（5月定植） • スイカ（5月定植）	農作物、園芸作物の違いとその種類。 野菜の分類法。 栽培の意義を理解し作物と作業の関連性。 種子の構造、発芽条件、播種方法、育苗と定植。 作物のからだ、栄養・生殖成長、作物体内の営み、花芽分化 受精、収穫 種子・栄養繁殖、育種 作付け体型と作型 キュウリの生理生態及び栽培法、作付け計画 スイカの生理生態及び栽培法、作付け計画
2 学期	作物を取り巻く環境とその管理 • 作物栽培と環境 • 作物の生育と大気の環境 • 作物の生育を支える土 • 作物の養分と肥料 • 作物をとりまく生物 私たちの暮らしと農業・農村 栽培実習（アブラナ科科） • ダイコン（10月実験） • キャベツ（10月実験）	栽培環境とその要素、 天気・天候・気候、大気環境、光、温度、水害、干害 土の役割、土の生成と土性、腐植、pH・E C、 必須元素・微量元素、肥料の種類と性質 害虫・益虫・根粒菌、作物の病原体、害虫の種類、雑草 ①人間と農業②農業を支える自然環境③農業技術と食料生産④農業農村の姿 ⑤食料の流通・消費と食品産業 ダイコンの生理生態及び栽培法、作付け計画 キャベツの生理生態及び栽培法、作付け計画
3 学期	プロジェクト実習（アブラナ科） • キャベツ（1月定植） 栽培実習（イネ科植物） • トウモロコシ（2月定植）	キャベツの生理生態及び栽培法、作付け計画 トウモロコシの生理生態及び栽培法、作付け計画

備考

年間を通して栽培管理、収穫、販売価格、個数、等を記録し、道具の整理整頓と点検を実施する。

※ 各科目A4版 1~2枚程度とする。

令和5年度

農業機械 シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	2 単位 (35h×2h)
学 科	アグリフード	学年・組	3学年 1組 AT
使用教科書	農業機械		
副教材			

「農業機械」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

実習・座学を通して、農業機械の役割を理解し、機械がどのような目的で用いられるかなどの知識を身につけ、安全で正しい操作技術や整備に関する知識を学ぶ。

授業の進め方

* 授業形態

座学（ワークシート）、実習（操作）

* 授業の際の心構え

実習の際は実習服、ヘルメットを着用し、安全に気を配り実習を行う。

「農業機械」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能	農業機械に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や役割を理解している	ワークシート 実地試験
思考・判断・表現	・農業機械の取り扱いと維持管理に必要な技術を習得する ・農業機械を安全に操作できる	実習
主体的に取り組む姿勢	農業機械に関する諸課題に関心を持ち、主体的に学ぶ姿勢を示す。実習は正しい服装で参加し、率先して実習を行うことができる	提出物、ワークシート、出席状況

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	農業機械の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・農業機械化の意義 ・農業機械の利用とその現状 作業機 <ul style="list-style-type: none"> ・刈り払い機 ・唐箕機 	農業機械とほかの機械とを比較し、特徴を捉え理解させる。 機械化と農業経営の関係を理解させる 農業機械の種類について理解させる。 動力機械と作業機械の違いを理解させる。 作業性能、コスト、利便性を理解させる。 刈り払い機の操作装置安全な作業方法を理解させる 唐箕機の仕組みを理解し、再現できるよう試行させる
2 学期	トラクタ <ul style="list-style-type: none"> ・乗用トラクタ ・歩行トラクタ 	乗用トラクタの操作装置の名称と作業方法を理解させる。 乗用トラクタの安全な運転技術を身につけさせる。 油圧装置の自動制御を理解させる。 歩行用トラクタの構造をよく理解させる。 歩行用トラクタの安全な運転技術を身につけさせる。
3 学期	作業機 <ul style="list-style-type: none"> ・耕うん・整地用機械 	耕うん・整地の目的と特徴を理解させる。 耕うん・整地の方法を身につけさせる。 破土目的と破土機の種類を理解させる。 ロータリ耕うんの構造を理解させ、正しい作業法を身につける。

備考

※ 各科目A4版 1～2枚程度とする。

令和3年度

「農業と環境（飼育）」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	2 単位（4 単位中）
学 科	アグリフード科・グリーンライフ科 フードプロデュース科・ライフスキル科	学年・組	1 学年（全学科）
使用教科書	農業と環境（実教出版）		
副教材			

「農業と環境（飼育）」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「農業と環境（飼育）」とは、農業生物の育成と環境保全についての体験的、体験的な学習を通して、農業及び環境に関する学習について興味・関心を高めるとともに、科学的思考力と課題解決能力を育成し、農業及び環境に関する基礎的な知識や技術を習得させ、農業の各分野で活用する能力と態度を育てることを目標としています。

特に飼育分野では、飼育の基礎として、ニワトリの飼育プロジェクト学習を中心に、飼育から加工・利用までを行い、農業生物の特性や育成環境及び計画・管理・評価の方法など、これから農業学習のための基礎的な知識や技術を体験的、総合的に学びます。

授業の進め方

*授業形態

- ①生き物を取り扱う特性から、授業時間外での観察・管理があります。
- ②座学（教室）と実験・実習（農場）を組み合わせて授業を行います（天候にも左右される場合があります）。
- ③実験・実習はグループ単位で行いますので、協力して学習活動に取り組んで下さい。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②生き物（命）を取り扱う授業なので、細心の注意を払いながら授業に望みましょう。
- ③常に課題意識を持ち、学習活動に取り組みましょう。
- ④観察や実験・実習においては、五感を十分に活用するよう心がけましょう。
- ⑤実験・実習においてはグループ単位で学習します。自主的に取り組み、共に協力して行うことを心がけましょう。
- ⑥学習用のプリントやファイルなどの記録簿は各自工夫して記入して下さい。
- ⑦教科書・記録簿（ノート）・筆記用具は忘れないようにして下さい。
- ⑧天候やニワトリの生育状況によって、授業が、左右される場合がありますので、常に実習着の準備をして下さい。

「農業と環境」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	①授業への出席状況や取り組む姿勢を評価します	・出席・記録簿 ・忘れ物等
思考・判断・表現	①観察や実験・実習記録や結果を自分の考え方や意見としてまとめることができるか評価します。	・記録簿・考察 ・まとめ・発表会
技能	①実験実習器具類を正確に取り扱いできるか、授業記録簿や観察、実験・実習方法など正確に記録できているか評価します。 ②実験・実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。	・器具類の取扱 ・記録簿 ・自己評価
知識・理解	①定期テスト及び授業時的小テストを行い、知識や理解の定着を評価します。	・テスト
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	農業と環境を学ぶ ①農業・環境学習とは何か ②農業と環境の学び方 栽培と飼育の基礎 ①家畜の特性と飼育 ニワトリの飼育プロジェクト ①飼育の計画	*農業と環境との関わりについて、生物を育て、環境を調べる等、農業や環境について学ぶ大切さを理解する。 *プロジェクト学習について、学習方法や進め方について学習する *農業生物の飼育について管理方法や飼育環境など基礎的な内容を学習し、家畜の特性と管理方法や飼育環境が相互に関係していることを理解する。 *ニワトリの形状と飼育上の性質や生育段階に応じた管理作業の手順や内容を理解し、飼育計画書を作成する。
2 学期	②ふ化 ③育すう ④採卵鶏の飼育 ⑤ブロイラーの飼育 ⑥ブロイラーの加工 ⑦食料の流通・消費と食品産業	*ふ化の方法や条件を理解する。 *育すう期の飼育方法を理解して、適切に管理を行う *産卵鶏の特性を知り、産卵のしくみを理解する。 *ブロイラーと地鶏、ブロイラー成長のしかた、給餌について理解する。 *ブロイラー加工及び利用について学習する。 *安全な食料の流通として、トレーサビリティ、農業生産工程管理（GAP）について学習する。
3 学期	⑥飼育プロジェクトのまとめ	*これまでの観察や調査等をもとにグラフなどデータをまとめる。 *結果・考察を行う。 *発表を行う。 *反省及び自己評価を行う。

備考

上記の学習計画においては、各学習項目ごとに観察、実験・実習等が含まれています。

「農業実習」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	1 単位 (時間外)
学 科	アグリフード科・グリーンライフ科 フードプロデュース科・ライフスキル科	学年・組	1 学年 (全学科)
使用教科書	実習内容に応じて適宜準備		
副教材	実習内容に応じて適宜準備		

「農業実習」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「農業実習」とは、1年で学ぶ「農業と環境」と関連づけ、体験的な学習を通じ、時間内で習得することのできない知識や技術を総合的に身につけていく科目です。また各学科2・3年生で学ぶ各分野への橋渡し的位置づけにもなります。農業及び環境に関する学習についてさらに興味・関心を高めたり、知識深めたりすることで、今後の農業学習の各分野で活用する能力と態度を育てることを目標としています。

授業の進め方

*授業形態

- ①休業中（夏休み・冬休み・入試期間中）に行います。
- ②家畜の飼育管理（衛生・肥育・施設環境）を中心に実習を行います。
- ③実習はグループ単位で行いますので、協力して学習活動に取り組んで下さい。
- ④農業及び地域産業各分野の視察見学があります。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②生き物（命）を取り扱う授業なので、細心の注意を払いながら授業に望みましょう。
- ③常に課題意識を持ち、学習活動に取り組みましょう。
- ④家畜の変化などの「気づき」を大切にし、五感を十分に活用するよう心がけましょう。
- ⑤学習用のプリントやファイルなどの記録簿は各自工夫して記入して下さい。
- ⑥教科書・記録簿（ノート）・筆記用具は忘れないようにして下さい。
- ⑦天候や家畜等の生育状況によって、内容が変更される場合がありますのが、常に実習着の準備をするようにして下さい。

「農業実習」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	①授業への出席状況や取り組む姿勢を評価します	・出席・記録簿 ・忘れ物等
思考・判断・表現	①観察や実習記録簿、視察見学記録簿等の結果を自分の考え方や意見としてまとめることができるか評価します。	・記録簿 ・考察、まとめ
技能	①実習器具類を正確に取り扱いできるか、実習記録簿や観察、実習方法・視察見学記録簿など正確に記録できているか評価します。 ②実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。	・器具類の取扱 ・記録簿 ・自己評価
知識・理解	①定期テストを行い、知識や理解の定着を評価します。	・テスト
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目（単元）	学習内容
1 夏季実習	農業体験実習 鶏と殺・解体実習	鶏のと殺解体実習を通して、命や食について体験的に学習する。
1 夏季実習	家畜の飼養管理実習 鶏・豚・牛の飼養管理実習	鶏・豚・牛の飼養管理を通して、給餌・給水・清掃の重要性を体験的に学習する。
2	即売会準備	即売会の準備を通して、学科の基礎的な知識や技術を体験的に学習する。
2 冬季実習	農業と環境 落葉採集実習	農業に基本としての土作りの材料として落葉採集を行い、土作りについて体験的に学習する。
2 冬季実習	家畜の飼養管理実習 鶏・豚・牛の飼養管理実習	鶏・豚・牛の飼養管理を通して、給餌・給水・清掃の重要性を体験的に学習する。
放課後当番実習	家畜の飼養管理実習 鶏・豚・牛の飼養管理実習	鶏・豚・牛の飼養管理を通して、給餌・給水・清掃の重要性を体験的に学習する。

備考

令和5年度

「総合実習」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	2単位
学 科	フードプロデュース科	学年・組	1年
使用教科書	自主作成のワークシート		
副教材	各専攻に応じて各自準備		

「総合実習」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「畜産」や「食品製造」と関連付けながら、畜産分野や食品製造分野に関する体験的な学習（日常の家畜の飼育管理や食品製造の実験実習等）を通して、総合的な知識や技術を身につけていく科目です。また飼育施設の管理や運営方法も学習し、必要に応じ修理等も行います。さらに授業の中で疑問や興味関心のあることは3年生で学ぶ「課題研究」のテーマを設定するための参考にもなります。

授業の進め方

*授業形態

- ①生き物と取り扱う特性から、授業時間外での観察・管理があります。
- ②飼育・実習（畜舎・加工室）を中心に授業を行います（天候にも左右される場合があります）。
- ③飼育・実習は3グループ、ローテーションで行いますので、協力して学習活動に取り組んで下さい。
- ④地域との交流学習を計画的に実施します。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②実習を中心に授業を進めていきますので、実習服は毎時間確実に準備するようにして下さい。
- ③常に課題意識を持ちながら取り組みましょう。
- ④飼育の観察や実習においては、五感を十分に活用するよう心がけましょう。
- ⑤飼育・実習においてはグループ単位で学習します。自主的に取り組み、共に協力して行うことを心がけましょう。
- ⑥記録用ノートやファイルなどの記録簿はしっかりと記入して下さい。
- ⑦地域との交流では自主的に取り組みましょう。
- ⑧実習や交流では、担当の指示を守り、食品の安全、健康管理やケガなどに注意すること。

「総合実習」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
知識・技術 (40%)	畜産や食品製造について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ペーパーテスト、文書による説明、キーワードの関連付け、実技試験 など
思考・判断・表現 (30%)	①調査・研究・実験などの結果を自分の考え方や意見としてまとめることができるか評価します。 ②地域との交流で自主的に取り組む姿勢を評価します。	論述、レポート作成、発表、グループ討議、作品制作、観察・実験の分析、グラフ表現 など
主体的に取り組む態度 (30%)	①授業や各種発表や農業鑑定、家畜審査競技などの取り組む姿勢を評価します。	ノート、レポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、自己評価、相互評価 など
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1学期～3学期	①飼育・管理 •一般管理 •繁殖・肥育 •衛生管理 •機械操作 ②加工・作品制作 •器具の作成 •飼育小屋の作成 ③畜産加工 •乳製品製造・鶏肉加工実験 •鶏肉を使った加工実験 •食品の安全	* 2グループのローテーションで実施する。 * 地域との交流学習を計画的に実施することにより、生徒の自主性を育てる。 * 飼育の管理の知識を定着させる。 * 衛生管理の知識を学ぶ。 * 管理に必要な機械の操作を定着させる。 * 加工・作品の制作させることにより興味・感心を向上させる。 * 加工実習を通して6次産業について学ぶ。 * 加工実習を通して6次産業について学ぶ。 * 食品の安全性とトレーサビリティとして、JAS 規格や農業生産工程管理（GAP）について学習する。

備考

「総合実習」は体験的な学習を通して、座学で学んだ内容をさらに深めたり、すでに知っている知識や技術をさらに伸ばしたりする授業です。「なぜ・どうして」等常に疑問を持ちながら授業に望むことを大切にして下さい。また家畜は生き物ですので、畜産分野に関しては、家畜の成長や成育状況の度合い応じて実習予定が前後する場合があります。また資格取得についての授業や農業関連施設の視察見学等も行う予定です。

令和5年度

「畜産」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	農業	単位数	4単位
学科	フードプロデュース科	学年・組	2学年
使用教科書	畜産（実教出版）		
副教材	畜産情勢やインターネットによる資料		

「畜産」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

①鶏・養豚に関して、家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を取得して、家畜の特性や飼育環境を理解する。②合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を取得します。

授業の進め方

*授業形態

○実習及び座学（授業の際の心構え）

- 最新情報や資料等は、将来の経営で大変役に立ちます。配布資料等はしっかり整理しましょう。また、日頃から最新の畜産情勢や情報の収集に努めましょう。
- 可能な限り実践的な知識・技術を提供します。総合実習と体系づけて実践力を身につけましょう。
- 授業中は説明をよく聞いて、記録をしっかり取るように心がけましょう。

「畜産」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技術 (40%)	①定期テスト及び授業時の単元(小)テストを行い、知識や理解の定着を評価します。 ②実験・実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。	・筆記試験 ・実技試験 ・記録簿
思考・判断・表現 (30%)	①観察や調査・実習記録や結果を自分の考えや意見としてまとめ、発表することができるか評価します。	・記録簿 ・考察、まとめ
主体的に取り組む態度 (30%)	①実習器具類を正確に取り扱いできるか、授業記録簿や観察、実験・実習方法など正確に記録できているか評価します。 ②授業への出席状況や自己評価、授業に取り組む姿勢を評価します。	・器具類の取扱 ・自己評価 ・記録簿 ・忘れ物等

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	養豚について学ぶ ①家畜飼育（養豚）の実際 1) 豚からだ 2) 豚の性質 3) 豚の産肉能力 ②豚の品種と改良 1) 品種と特徴 2) 改良と選抜 ③飼育形態と施設・設備	* 豚の特性を理解し、飼育管理の基礎向上と豚の扱い方を学習し、品種や系統および飼育の方法での産肉能力の違いを理解する。 * 品種の特徴を理解し、条件に見合った品種選択ができ、交配方法により雑種の肉質改善技術を理解する。 * 豚の飼育方法と付帯設備を学習し、わが国と本県での飼育形態を比較し検討する。 * 繁殖豚の適切な飼育管理技術を学習し繁殖方法、分娩、出産について理解する。
2 学期	④繁殖豚の生理と飼育技術 1) 繁殖サイクル 2) 繁殖雌豚の育成 3) 分娩介助 ⑤子豚の生理と飼育技術 1) 子豚の生理的特徴 2) 子豚の選び方⑥肉豚の生理と飼育技術 1) 肉豚の生理 ⑦飼料の種類とその配合 1) 飼料の種類・特徴 2) 飼料の配合法	* 繁殖豚の適切な飼育管理技術を学習し繁殖方法、分娩、出産について理解する。 * 哺育器の母豚と子豚の適切な管理を学習し、子豚の病気・下痢の要因を理解する。 * 肉豚の生理を学習し、発育に応じた管理を理解する。 * 繁殖や肥育などへの効果的な給与飼料について理解する。
3 学期	⑧豚の衛生と病気 1) 健康状態の観察 2) 飼育環境の予防・対策 3) 主な病気と対策	* 豚の病気の種類や予防および治療法について学習し、また伝染病による牛舎環境整備、糞尿処理対策について考える。

備考

「技術実践」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	農業	単位数	2単位
学科	フードプロデュース科	学年・組	2年3組(AT系列)
使用教科書	自主作成のプリント		
副教材	食肉処理技法 豚精肉・部分肉（社団法人全国食肉学校） 食品製造・畜産（実教出版）		

「技術実践」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「技術実践」とは、ATの生徒が食肉生産コースと畜加工コースに分かれて行う科目です。食肉生産コースでは実践的な学習を通して、飼育や生産に関する技術を習得します。畜加工コースでは実践的な学習を通して、食肉処理に関する技術を習得します。

食肉生産コースでは、2年で学ぶ「畜産」と関連付け、豚の管理技術、飼料の配合など食肉生産を行うために、必要な知識や技術についてさらに深く学習します。

畜加工コースでは、2年で学ぶ「食品製造」と関連付け、豚の精肉加工技術に必要な知識や技術について学習します。

授業の進め方

*授業形態

- ①技術の習得を中心に学習を進めます。
- ②ATの生徒が食肉生産コースと畜加工コースに分かれて行います。
- ③食肉生産コース、畜加工コース共にグループ単位で学習します。
- ④授業内容によっては外部講師（精肉加工）による実践授業等があります。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②実験実習を中心に授業を進めていきますので、実習着は毎時間確実に準備するようにして下さい。
- ③常に課題意識を持ちながら取り組みましょう。
- ④実習においては機械や機具類を活用します。ケガ等のないよう細心の注意を払いながら授業に望みましょう。
- ⑤実習においてはグループ単位で学習します。自主的に取り組み、共に協力して行うことを行いましょう。
- ⑥記録用ノートやファイルなどの記録簿はしっかりと記入して下さい。
- ⑦外部講師の実践授業においては疑問に思った事などを積極的に質問するようにしましょう。

「技術実践」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能 (40%)	食品製造について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けています。	ペーパーテスト、文章による説明、キーワードの関連付け、実技試験など
思考・判断・表現 (30%)	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけています。	論述、レポート作成、発表、グループ討議、作品制作、観察・実験の分析、グラフ表現など
主体的に学習に取り組む態度 (30%)	食品製造について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけています。	ノート、レポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、自己評価、相互評価など

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	食肉生産コース ①優良肉豚の個体選抜 ②環境と飼育技術 ③飼料と飼育技術 畜加工コース ①食肉処理作業の基本 ②部分肉製造について	食肉生産コース ①外ぼう審査等の審査により良質な豚の選抜方法について技術や知識を習得する。 ②土着菌等を利用し、飼育環境が肉質に及ぼす影響を調べる。 ③飼料配合や給与方法による生育や肉質の変化について学習する。 畜加工コース *ナイフの種類と取扱方法について学ぶ *かたの分割（左右）・ももの分割について技術を習得する。 *分割された各部位（かた・ロース・ばら・もも）について、さらに細かく分割するため、さばきの技術を習得する。
2 学期	食肉生産コース ①繁殖用雄豚の育成 ②繁殖用雌豚の育成 畜加工コース ①部分肉整形技術について	食肉生産コース ①繁殖用雄豚を育成する知識や技術を習得する。 ②繁殖用雌豚を育成する知識や技術を習得する。 畜加工コース *さばかれた部分肉（かた・ロース・ばら・もも・ロース）を利用条件（規格条件）に合うように、整形技術（脂肪の厚さ、血汚れ、変色部の除去）を習得する。
3 学期	食肉生産コース ①繁殖と子豚の育成及び肥育 ②農業経営の改善 ③授業のまとめと考察 畜加工コース ② 精肉商品づくりの基本 ②各部位からの商品づくり ③食品の安全な製造	食肉生産コース ① 選抜された繁殖用雄豚及び雌豚の交配により、繁殖や育成、肥育の知識や技術を習得し、肉質改善について学習する。 ②食品の安全性とトレーサビリティとして、牛個体識別システム、JAS 規格や農業生産工程管理（GAP）について学習する。 ③授業で学んだことを整理する。 畜加工コース *精肉商品作りに必要なカッティングの目的や種類、方法について学習する。 *ひれ、ロース、もも、かた、ばらなど各部位のすじひき・整形技術や商品作りのカッティング技術を習得する。 HACCP 手法を取り入れた作業手順を学ぶ。

「職業と技術」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	1 単位
学 科	フードプロデュース	学年・組	2学年 A T
使用教科書	各資格取得に対応する講座教本		
副教材	自作プリント		

「職業と技術」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

食肉生産および畜産加工に必要な各種技術（危険物取扱者、農業技術検定、食品衛生管理者、アーク溶接、ガス溶接、畜産上級技術検定等）についての理解を深めるとともに、実践力、適応能力を養い、専門的人材の育成を図る。また、その関連した主な職業を学ぶことにより、仕事と資格との結びつきを理解し資格取得等にチャレンジする精神を養う。

授業の進め方

*授業形態

各資格取得にむけた座学および演習を中心に行う。

*授業の際の心構え

食肉生産および畜産加工において重要な資格となりますので、積極的に資格取得をチャレンジしていきましょう。また、それぞれの資格取得の対策プリントは、資格ごとに整理整頓をしっかりとやりましょう。

「職業と資格」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能 (40%)	資格取得について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ペーパーテスト、文章による説明、キーワードの関連付けなど
思考・判断・表現 (30%)	資格取得に関する課題を発見し、職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	論述、レポート作成 など
主体的に学習に取り組む態度 (30%)	資格取得について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけていく。	ノート、レポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、自己評価、相互評価など
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	① 職業選択について ② 資格取得について ③ 食品衛生責任者について	<ul style="list-style-type: none"> * 職業の種類と自身に合った職業について理解する。 * 本校で取得出来る資格の種類について知る。 * 食品衛生責任者の意義について理解する。 * 食品に関する法律について学ぶ。 * 施設・設備の衛生管理について理解する。
2 学期	① 農業技術検定について ② 危険物取扱者試験	<ul style="list-style-type: none"> * 農業技術検定試験の概要について学ぶ。 * 家畜の飼育技術に関する知識について理解する。 * 本試験への取組 * 危険物に関する法令を学ぶ。 * 物理学や化学の基礎知識について理解する。 * 危険物の性質について理解する。
3 学期	① 畜産技術検定に向けて	<ul style="list-style-type: none"> * 畜産技術検定に向けた取り組みを行う。 * 牛、豚、鶏などの基本的な品種・病気・経営について学ぶ。 * 畜産に関する法律を理解する。 * 施設・器械の名称などを学ぶ。

備考

令和5年度

「食品製造」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	4単位
学 科	フードプロデュース科	学年・組	2年3組
使用教科書	食品製造（実教出版）		
副教材	自作プリント		

「食品製造」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

この科目は、食品製造の中で畜産加工分野を中心に、食品製造の原理と方法、主な食品の加工と貯蔵など、食品の製造について学習する科目であり、主として食料に関する分野の科目です。学習に当たっては、2年生では食品衛生や食中毒・鶏卵・豚肉・鶏肉の加工を3年生では乳加工・牛肉を中心に学習します。この科目の学習目標としては、食品製造に必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を養うことを目的としています。

授業の進め方

- 授業は講義（座学）と実習で内容を並行しながら反復学習を行い、加工食品の製造原理を理解し、製造方法や製造工程を習得します。
- 実習では、複数の教員によるチームティーチングにより、きめ細やかな指導を行います。

「食品製造」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
知識・技能 (40%)	食品製造について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	ペーパーテスト、文章による説明、キーワードの関連付け、実技試験 など
思考・判断・表現 (30%)	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	論述、レポート作成、発表、グループ討議、作品制作、観察・実験の分析、グラフ表現 など
主体的に学習に取り組む態度 (30%)	食品製造について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。	ノート、レポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察、自己評価、相互評価 など

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学 期	①食品製造の目的・必要性 ②食品の変質の原因、食品に応じた貯蔵方法 ③食品衛生について ④鶏卵の構造と加工特性 ⑤鶏卵の加工	* 食品製造の意義・特性・基礎について学ぶ。 * 食品の分類・栄養・働きについて学ぶ。 * 食品の生物的・物理的・化学的要因による変質 * 加熱殺菌・冷凍・冷蔵・燻煙・その他の貯蔵方法 * 食品衛生の目的・重要性・食品衛生に関する法律 * HACCP や GAP の意義について学ぶ * 鶏卵の構造と加工特性について学ぶ。 * 鶏卵加工の種類 * 鶏卵の利用（マヨネーズ・タルタルソースの製造）
2 学 期	①豚肉の特徴と加工特性	* 豚肉の特徴・種類や部位、加工特性について学ぶ * 豚肉の利用 (ハンバーグ・チーイリチー・ハム・ベーコン・ソーセージの製造)
3 学 期	④鶏肉の特徴と加工特性	* 鶏肉の特徴・種類や部位、加工特性について学ぶ。 * 鶏肉の利用（スモークチキン・ローストチキンの製造）

備考

《実習の注意点》

- ・実習は全員で協力して取り組みましょう。
- ・実習ではさまざまな食品製造用の機械や器具を使用しますので安全のために、指導者の指示に従って、正しく使用して下さい。
- ・食品衛生上、服装は清潔に保つように心がけましょう。
- ・安全及び食品衛生上、実習服・エプロン・実習帽・長靴は正しく着用して下さい。
- ・食品衛生上、爪が長い場合は切って下さい。
- ・実習を行うにあたって5S活動（整理・整頓・清潔・清掃・躰）を積極的に取り組んで下さい。

《授業担当者から》

食品を扱う上で、とても重要な科目になります。将来、実際に食品製造に関する仕事に就く事を想定して授業や実習を行います。仕事をする上で、必要となる言葉遣い・身なり・態度・マナーを日頃から実践していきましょう。

衛生管理、体調管理、安全作業については細かく指導します。

令和5年度

「総合実習」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	4単位
学 科	フードプロデュース科	学年・組	2年3組
使用教科書	自主作成のワークシート		
副教材	各専攻に応じて各自準備		

「総合実習」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「畜産」や「食品製造」と関連付けながら、畜産分野や食品製造分野に関する体験的な学習（日常の家畜の飼育管理や食品製造の実験実習等）を通して、総合的な知識や技術を身につけていく科目です。また飼育施設の管理や運営方法も学習し、必要に応じ修理等も行います。さらに授業の中で疑問や興味関心のあることは3年生で学ぶ「課題研究」のテーマを設定するための参考にもなります。

授業の進め方

*授業形態

- ①生き物と取り扱う特性から、授業時間外での観察・管理があります。
- ②実習（畜舎・加工室）を中心に授業をします（天候にも左右される場合があります）。
- ③各コース（食肉生産・畜加工）で授業を行いますので、協力して学習活動に取り組んで下さい。
- ④地域との交流学習を計画的に実施します。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②実習を中心に授業を進めていきますので、実習服は毎時間確実に準備するようにして下さい。
- ③常に課題意識を持ちながら取り組みましょう。
- ④飼育の観察や実習においては、五感を十分に活用するよう心がけましょう。
- ⑤各コースで学習します。自主的に取り組み、共に協力して行うことを心がけましょう。
- ⑥記録用ノートやファイルなどの記録簿はしっかりと記入して下さい。
- ⑦地域との交流では自主的に取り組みましょう。
- ⑧実習や交流では、担当の指示を守り、食品の安全、健康管理やケガなどに注意すること。

「総合実習」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
知識・技術 (40%)	①意見発表、プロジェクト発表などの各種発表や農業鑑定、家畜審査競技などの取り組む姿勢を加味し、評価します。 ②学期末に農業鑑定・家畜審査等※を行い、知識や理解の定着を評価します。	・農業鑑定・記録簿 ・忘れ物等 ・農業クラブ大会
思考・判断・表現 (30%)	①調査・研究・実験・実習などの結果を自分の考えや意見としてまとめることができるか評価します。 ②地域との交流で自主的に取り組む姿勢を評価します。	・記録簿・考察 ・まとめ・発表会 ・交流会
主体的に取り組む態度 (30%)	①実験実習器具類を正確な取り扱い、授業記録簿や観察、実験・実習方法など正確に記録できているか評価します。 ②農業クラブ発表会(意見・プロジェクト発表会や家畜審査競技等)の参加や記録簿を加味評価します。 ③実験・実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。 ④授業への出席状況や取り組む姿勢を評価します。	・出席 ・器具類の取扱 ・各種発表会参加や記録簿 ・自己評価
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学 期 ～ 3 学 期	①飼育管理(豚、牛) •一般管理 •繁殖・肥育 •衛生管理 •機械操作 ②畜産加工 •串焼き •加工実習 •鶏、豚、牛活用実習	*3グループのローテーションで実施する。 *地域との交流学習を計画的に実施することにより、生徒の自主性を育てる。 *飼育の管理の知識を定着させる。 *衛生管理の知識を学ぶ。 *管理に必要な機械の操作を定着させる。 *加工・作品の制作させることにより興味・感心を向上させる。 *加工実習を通して6次産業について学ぶ。 *JAS規格や農業生産工程管理(GAP)について

備考
「総合実習」は体験的な学習を通して、座学で学んだ内容をさらに深めたり、すでに知っている知識や技術をさらに伸ばしたりする授業です。「なぜ・どうして」等常に疑問を持ちながら授業に望むことを大切にして下さい。また家畜は生き物ですので、畜産分野に関しては、家畜の成長や成育状況の度合い応じて実習予定が前後する場合があります。また宿泊実習や関連施設の視察見学等も行う予定です。

令和5年度

「農業実習」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	1 単位（時間外）
学 科	フードプロデュース科	学年・組	2年3組
使用教科書	実習内容に応じて適宜準備		
副教材	実習内容に応じて適宜準備		

「農業実習」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

体験的な学習を通し、時間内で習得することのできない知識や技術を総合的に身につけていく科目です。また各学科2・3年生で学ぶ橋渡し的な位置づけにもなります。関連する学習についてさらに興味・関心を高めたり、知識深めたりすることで、今後の農業学習の各分野で活用する能力と態度を育てることを目標としています。

授業の進め方

*授業形態

- ①休業中（夏休み・2学期）に行います。
- ②体験的な学習を中心に実習を行います。
- ③実習はグループ単位で行いますので、協力して学習活動に取り組んで下さい。
- ④農業及び地域産業各分野の視察見学があります。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②清掃・整理整頓に心がけましょう。
- ③常に課題意識を持ち、学習活動に取り組みましょう。
- ④
- ⑤学習用のプリントやファイルなどの記録簿に記入して下さい。
- ⑥教科書・記録簿（ノート）・筆記用具は忘れないようにして下さい。
- ⑦天候によって、内容が変更される場合がありますのが、常に実習着の準備をするようにして下さい。

「農業実習」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
知識・技術 (40%)	①実験・実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。	・実技試験 ・器具類の取扱 ・記録簿
思考・判断・表現 (30%)	①観察や調査・実習記録や結果を自分の考え方や意見としてまとめ、発表することができるか評価します。	・記録簿 ・考察、まとめ
主体的に取り組む態度 (30%)	①授業記録簿や観察、実験・実習方法など正確に記録できているか評価します。 ②授業への出席状況や自己評価、授業に取り組む姿勢を評価します。	・自己評価 ・記録簿 ・忘れ物等
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期 (夏期休業)	農業体験実習 ①現場実習 地域産業視察研修 ①視察研修	* 教科に関連する現場において体験を通して学習する。 * 地域の農業関連施設及び産業施設を視察見学し、地域の産業について知識や理解を深める。
2 学期	生産実習 ①大量生産実習	* 販売実習に扱う生産物の製造実習を通して技能や知識、理解を深める。

備考

「技術実践」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	農業	単位数	4単位
学科	フードプロデュース科	学年・組	3学年 AT
使用教科書	自主作成のプリント、畜産・食品製造（実教出版）		
副教材	食肉処理技法 牛精肉・部分肉（社団法人全国食肉学校）		

「技術実践」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「技術実践」とは、AT の生徒が食肉生産コースと畜加工コースに分かれて行う科目です。食肉生産コースでは実践的な学習を通して、飼育や生産に関する技術を習得します。畜加工コースでは実践的な学習を通して、食肉処理に関する技術を習得します。

食肉生産コースでは、2年で学ぶ「畜産」と関連付け、牛の管理技術、飼料の配合など食肉生産を行うために、必要な知識や技術についてさらに深く学習します。

畜加工コースでは、2年で学ぶ「食品製造」と関連付け、牛の精肉加工技術に必要な知識や技術について学習します。

授業の進め方

*授業形態

- ①技術の習得を中心に学習を進めます。
- ②AT の生徒が食肉生産コースと畜加工コースに分かれて行います。
- ③食肉生産コース、畜加工コース共にグループ単位で学習します。
- ④授業内容によっては外部講師（精肉加工）による実践授業等があります。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②実験実習を中心に授業を進めていきますので、白衣や実習着は毎時間確実に準備するようにして下さい。
- ③常に課題意識を持ちながら取り組みましょう。
- ④実習や実験においては機械や機具類を活用します。ケガ等のないよう細心の注意を払いながら授業に望みましょう。
- ⑤実験・実習においてはグループ単位で学習します。自主的に取り組み、共に協力して行うことを行いましょう。
- ⑥記録用ノートやファイルなどの記録簿はしっかりと記入して下さい。
- ⑦外部講師の実践授業においては疑問に思った事などを積極的に質問するようにしましょう。

「技術実践」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	①授業への出席状況や取り組む姿勢を評価します。	・出席・記録簿 ・忘れ物等
思考・判断・表現	①実験・実習などの結果を自分の考えや意見としてまとめることができるか評価します。	・記録簿・考察 ・まとめ・発表会
技能	①実験実習器具類を正確・安全に取り扱いできるか、授記録簿や観察、実験・実習方法など正確に記録できているか評価します。 ②実験・実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。	・器具類の取扱 ・記録簿 ・自己評価
知識・理解	①定期テストを行い、知識や理解の定着を評価します。 ②記録簿や授業の成果（発表会の様子やレポート）などで評価します。	・テスト ・記録簿・レポート ・発表会
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	食肉生産コース ①優良肉牛の個体選抜 ②優良肉牛の家系選抜 畜加工コース ①部分肉製造について	食肉生産コース ①外ぼう審査等の審査により優良肉牛の選抜方法について技術や知識を習得する。 ②家系選抜による優良肉牛の選抜方法について技術や知識を習得する。 畜加工コース ①かた、ともばら、ともロース、ももの大分割についての知識と技術を習得する。 ②大分割された各部位（かた・ともばら・ともロース・もも）について、さらに細かく分割するため、さばきの技術を習得する。
2 学期	食肉生産コース ①優良肉用牛家系図について ②本校肉用牛の家系図作成 ③環境と飼育技術 ④飼料と飼育技術 畜加工コース ①部分肉整形技術について	食肉生産コース ①国内で優良な肉用牛とされる家系図を作成し、牛の能力の判定方法について、知識や技術を習得する。 ②本校肉用牛の家系図を作成する。 ③未利用資源等を利用し、飼育環境が肉質に及ぼす影響を調べる。 ④飼料配合や給与方法による生育や肉質の変化について学習する。 畜加工コース ①さばかれた部分肉（かた・ともばら・ともロース・ももなど）を利用条件（規格条件）に合うように、整形技術（脂肪の厚さ、血汚れ、変色部の除去）を習得する。
3 学期	食肉生産コース ①授業のまとめと考察 ②レポート作成・発表準備 ③発表会 畜加工コース ①各部位からの商品づくり ②内臓部位の商品作り	食肉生産コース ①レジュメや発表会に向けてのプレゼンテーションを作成する。 ②学科全生徒及び職員を対象にプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力を身につける。 ③JAS 規格や農業生産工程管理（GAP）について 畜加工コース ①かた・ともばら・ともロース・ももなど各部位のすじひき・整形技術や商品作りのカッティング技術や知識を習得する。 ②内臓各部位の整形技術や商品作りのカッティング技術や知識を習得する ③JAS 規格や農業生産工程管理（GAP）について

備考：「技術実践」体験的な活動を通して実践的に学ぶ科目です。各コースともに、今後発展的な農業学習を進めていくための知識や技術を肌で感じ、学び、身につけることを目標にしています。

「課題研究」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	3単位
学 科	フードプロデュース科	学年・組	3 学年
使用教科書	研究テーマに応じて各自準備		
副教材	研究テーマに応じて各自準備		

「課題研究」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「課題研究」とは、これまで学んだことをもとに、農業に関する課題を各自で設定し、その課題の解決を図る学習（調査・研究・実験・作品制作など）を通して、専門的な知識と技能の深め、総合化を図るとともに、問題を解決する能力や自発的、創造的な学習態度を育てることを目標としています。

授業の進め方

*授業形態

- ①グループ単位で調査・研究・実験・作品制作などを行います。
- ②テーマ設定・計画・実施・まとめ・発表までを行います。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②常に課題意識を持ち、学習活動に取り組みましょう。
- ③観察や実験・実習においては、五感を十分に活用するよう心がけましょう。
- ④実験・実習においてはグループ単位で学習します。自主的に取り組み、共に協力して行うことを行いましょう。
- ⑤記録用ノートやファイルなどの記録簿は各自工夫して作成・記入して下さい。

「課題研究」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	①授業への出席状況や取り組む姿勢を評価します	・出席・記録簿 ・忘れ物等
思考・判断・表現	①調査・研究・実験などの結果を自分の考え方や意見としてまとめることができるか評価します。	・記録簿・考察 ・まとめ・発表会
技能	①実験実習器具類を正確に取り扱いできるか、記録簿や調査・研究・実験など正確に記録でき	・器具類の取扱 ・記録簿

	ているか評価します。 ②実験・実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。	・自己評価
知識・理解	①研究方法の設定や進め方の様子、研究の成果（発表会の様子やレポート）などで評価します。	・記録簿 ・発表会 ・レポート
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①課題研究テーマの設定。 ②研究計画 ③研究活動	*これまで学習したことをもとに、各自興味関心のあるものを探しだし、研究のテーマとする。 *1年間の研究計画を立て、計画的に研究が実践できるように工夫する。 *設定したテーマをもとに、情報収集や調査・研究・実験などを行う。
2 学期	④研究活動の継続 ⑤研究結果のまとめと考察 ⑥レポート作成 ⑦発表準備	*1学期の研究活動を継続して進める。 *研究結果を整理する。 *提出用にレジュメ（短くまとめたもの）とレポート作成する。 *課題研究発表会に向けて、パソコンを使用しプレゼンテーション（発表用スライド）を作成する。
3 学期	⑧課題研究発表会 ⑨レポート提出	*学科全生徒及び職員を対象にプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション能力を養う。 (優秀な研究は校内発表会の学科代表として選出する) *レポートを提出する。

備考

「課題研究」はこれまでの農業学習をもとに、自分が興味・関心のあるテーマに沿って、研究計画から研究の方法や進め方、評価まで自己完結することを目標にしたいものです。

研究成果よりも研究のプロセスを大切が大切です。研究活動に主体的に取り組み、困難を乗り越え、課題対応能力や問題解決能力を身につけましょう。また、研究テーマはできるだけ地元の素材または課題などをできるだけ取り入れて取り組むことを望みます。

令和5年度

「食品製造」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	5 単位
学 科	フードプロデュース	学年・組	3 学年
使用教科書	食品製造（実教出版）		
副教材	自主作成のワークシート		

「食品製造」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

この科目は、食品製造の中で畜産加工分野を中心に、食品製造の原理と方法、主な食品の加工と貯蔵など、食品の製造について学習する科目であり、主として食料に関する分野の科目です。学習に当たっては、3年生では乳・牛肉の加工を中心に学習します。この科目の学習目標としては、食品製造に必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を養うことを目的としています。

授業の進め方

* 授業形態

- ①座学（教室）と実習（加工室）を組み合わせて授業を行います。実習では、加工服の着用と食品を扱う衛生的な態度が必要になります。
- ②実習はグループ単位で行いますので、協力して学習に取り組んで下さい。
- ③加工した実習生産物の販売学習も行います。

* 授業の際の心構え

- ①始まりの時間を守ります。
- ②授業の始めと終わりは、あいさつをします。
- ③筆記用具、記録簿（ワークシートを綴るファイル）を準備し記入します。
- ④常に課題意識を持ちながら学習しましょう。
- ⑤実習では、加工服の着用と衛生的な態度（爪を切る、清潔な実習服など）に心がけましょう。
- ⑥グループ単位で学習します。自主的に取り組み、共に協力して行いましょう。
- ⑦実習後の清掃も重要な学習の一つです。積極的に取り組みましょう。
- ⑧実習中は2～3時間の連続の授業を行います。体調管理には十分に注意してください。
- ⑨課題を設定し、作品の提出を実施します。
- ⑩定期的にレポート提出や記録簿の提出を実施します。

「食品製造」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	①衛生的な実習服の着用、身なりを評価します。 ②授業への出席状況を評価します。 ③ワークシートの記入状況を評価します。 ④実習中、実習後の態度や清掃活動で評価します。	・衛生的な身なり ・出席状況・忘れ物 ・記録簿の記入等 ・実習態度
思考・判断・表現	①記録簿のまとめや整理の仕方で評価します。 ②グループでの加工品の作品を評価します。 ③レポートのまとめ方を評価します。 ④販売学習での取り組み方を評価します。	・記録簿の提出 ・加工品の作品 ・レポート提出 ・販売実習態度
技能	①実習工程中、どの様に工夫しているかを評価します。 ②加工品の完成品を評価します。	・実習の工夫 ・実習作品
知識・理解	①定期テストを行い、知識と理解の定着を評価します。 ②課題の作品提出で評価します。	・定期テスト ・作品の提出
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①食品の包装 ②加工食品の表示制度 ③肉類の加工 ・ハム　・ベーコン ・ソーセージ　・中味 ・豚ハンバーグ ・スチュー ・チーイリチャー ・スマートチキン ・ローストチキン	* 食品包装の目的と種類を理解させる。 * 食品の包装材料について学ぶ。 * 食品の包装形態と包装技術の基礎知識・操作について学ぶ。 * 容器包装リサイクル法を確実に身につけさせる。 * 食品表示の意義と制度について学ぶ。 * 牛乳の成分と加工特性を理解させる。 * スターターの培養と管理を身につけさせる。 * 各加工法の知識と技術を身につけさせる。
2 学期	④牛肉の加工 ・牛肉の成分と加工特性 ・ハンバーグ ・ビーフジャーキー ¹ ・ローストビーフ ・デミグラスソース ・牛汁 ⑤加熱装置と冷却装置の活用	* 牛肉の成分と加工特性を理解させる。 * 煙燄の知識と技術を身につけさせる。 * レトルト食品の製造技術と操作を身につけさせる。 * 各加工法の知識と技術を身につけさせる。 * 加熱装置・冷却装置とその利用について知識を定着させる。 * 加熱殺菌と冷却の技術を定着させる。
3 学期	⑥自動制御装置の活用 ⑦品質管理 ⑧作業体系 ⑨安心と安全	* 自動制御装置について目的と種類を理解させる。 * 品質管理の必要性について知識を定着させる。 * 従業員の管理教育について理解させる。 * 施設・設備の整備と管理について理解させる。 * 作業体系について理解させる。 * 安心と安全の確保について確実に定着させる。 * 食品衛生と法律（HACCP・GAPシステム）

令和5年度

「総合実習」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	2単位
学 科	フードプロデュース科	学年・組	3学年
使用教科書	自主作成のワークシート		
副教材			

「総合実習」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

「総合実習」とは、2年で科目と関連付けながら、畜産分野や食品製造分野に関する体験的な学習（日常の家畜の飼育管理や食品製造の実験・実習等）を通して、総合的な知識や技術を身につけていく科目です。また飼育施設の管理方法も学習し、必要に応じ修理等も行います。さらに授業の中で疑問や興味関心のあることについて科目「課題研究」において各自設定したテーマに沿った授業内容で進めています。

授業の進め方

*授業形態

- ①生き物と取り扱う特性から、授業時間外での観察・管理があります。
- ②実験・実習（農場・加工室）を中心に授業を行います（天候にも左右される場合があります）。
- ③実験・実習は4グループ、ローテーションで行いますので、協力して学習活動に取り組んで下さい。
- ④地域との交流学習を計画的に実施します。

*授業の際の心構え

- ①授業の始めと終わりはあいさつを行います。
- ②実験実習を中心に授業を進めていきますので、実習服は毎時間確実に準備するようにして下さい。
- ③常に課題意識を持ちながら取り組みましょう。
- ④観察や実験・実習においては、五感を十分に活用するよう心がけましょう。
- ⑤実験・実習においてはグループ単位で学習します。自主的に取り組み、共に協力して行うことを心がけましょう。
- ⑥記録用ノートやファイルなどの記録簿はしっかりと記入して下さい。
- ⑦地域との交流では自主的に取り組みましょう。
- ⑧実習や交流では、担当の指示を守り、健康管理やケガなどに注意すること。

「総合実習」の評価の観点		
評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	①授業への出席状況や取り組む姿勢を評価します。 ②意見発表、プロジェクト発表などの各種発表や農業鑑定、家畜審査競技などの取り組む姿勢を加味し、評価します。	・出席・記録簿 ・忘れ物等 ・農業クラブ大会
思考・判断・表現	①調査・研究・実験などの結果を自分の考えや意見としてまとめることができるか評価します。 ②地域との交流で自主的に取り組む姿勢を評価します。	・記録簿・考察 ・まとめ・発表会 ・交流会
技能	①実験実習器具類を正確な取り扱い、授業記録簿や観察、実験・実習方法など正確に記録できているか評価します。 ②農業クラブ発表会（意見・プロジェクト発表会や家畜審査競技等）の参加や記録簿を加味評価します。 ③実験・実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。	・器具類の取扱 ・各種発表会参加や記録簿 ・自己評価
知識・理解	①学期末に農業鑑定・家畜審査等※を行い、知識や理解の定着を評価します。※農業に関する知識・技術の成果を、鑑定・判定・診断等において、その実力を競い合う競技。	・農業鑑定
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1学期～3学期	①飼育・飼料作物管理 •一般管理 •繁殖・肥育 •衛生管理 •栽培管理 •機械操作 ②加工・作品制作 •器具の作成 •飼育小屋の作成 ③実験 •飼育管理 •環境 •賞味期限 •栽培管理 ④畜産加工 •串焼き •調理実習	*4グループのローテーションで実施する。 *地域との交流学習を計画的に実施することにより、生徒の自主性を育てる。 *飼育・栽培の管理の技術を定着させる。 *衛生管理の技術を学ぶ。 *管理に必要な機械の操作を定着させる。 *加工・作品の制作させることにより興味・感心を向上させる。 *実験の意味や方法を理解させ、知識と技術の習得を定着させる。 *加工実習を通して6次産業について実践させる。 *JAS 規格や農業生産工程管理（GAP）について *HACCP システムについて

備考

「総合実習」は体験的な学習を通して、座学で学んだ内容をさらに深めたり、すでに知っている知識や技術をさらに伸ばしたりする授業です。「なぜ・どうして」等常に疑問を持ちながら授業に望むことを大切にして下さい。また家畜は生き物ですので、畜産分野に関しては、家畜の成長や成育状況の度合い応じて実習予定が前後する場合があります。また宿泊実習や関連施設の視察見学等も行う予定です。

令和5年度

「畜産」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教科	農業	単位数	5単位
学科	フードプロデュース科	学年・組	3学年
使用教科書	畜産（実教出版）		
副教材	自作プリント、専門誌		

「畜産」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

- ①座学や実習を通して、家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得して、家畜の特性や飼育環境を理解する。（肉牛に関すること）
②また、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を取得します。

授業の進め方

*授業形態

○実習及び座学

*授業の際の心構え

- ① 最新情報や資料等は、将来の経営に大変役に立ちます。配布資料等はしっかり整理しましょう。また、日頃から最新の畜産情勢や情報の収集に努めましょう。
② 可能な限り実践的な知識・技術を提供します。総合実習と体系づけて実践力を身につけましょう。
③ 授業中は説明をよく聞いて、記録簿をしっかり取るように心がけましょう。

「畜産」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	①授業への出席状況や取り組む姿勢を評価します	・出席・記録簿 ・忘れ物等
思考・判断	①観察や調査・実習記録や結果を自分の考えや意見としてまとめることができるか評価します。	・記録簿 ・考察、まとめ
技能・表現	①実習器具類を正確に取り扱いできるか、授業記録簿や観察、実験・実習方法など正確に記録できているか評価します。 ②実験・実習での技能や技術の習得状況を自己評価し、これを反映します。	・器具類の取扱 ・記録簿 ・自己評価

知識・理解	①定期テスト及び授業時的小テストを行い、知識や理解の定着を評価します。	・テスト
以上の事項を総合的に判断し評価します。		

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	肉牛について学ぶ ①家畜飼育（肉牛）の実際 ②飼育形態と施設・設備 ③肉牛の生理と飼育技術 1) 肉牛の繁殖生理 2) 肉牛の肥育と肉質	* 和牛とは何か、その歴史と品種の改良について学習し、和牛の特徴・性質を理解する。 * 舎飼い飼育と放牧飼育の方法と付帯設備を学習し、わが国と本県での飼育形態を比較し検討する。 * 肉牛のライフサイクル（繁殖方法、繁殖管理、妊娠鑑定、分娩管理、哺育、育成）について理解する。 * 飼料の生産と利用について学ぶ。 * 牛の肥育、肥育方法、肉質と格付け、素牛の選び方について理解する。 * 石垣牛の歴史・飼養環境について理解する。
2 学期	④肉牛の飼養管理 1) 特殊管理 ⑤肉牛の衛生と病気 1) 衛生管理と疾病対策 ⑥肉牛の血統 1) 市場調査	* 肉牛の保定、削蹄、去勢、除角、個体識別標の利用方法を理解する。 * 肉牛の寄生虫駆除、病気予防、子牛下痢診断、投薬、外傷治療、尿結石など、また伝染病による牛舎環境整備、糞尿処理対策について考える。 * 和牛の改良や系統について理解し、子牛市場・食肉市場からの資料をもとに善し悪しを学習する。
3 学期	⑦畜産経営診断と設計 1) 日本の畜産 2) 将来の経営像	* 県内・県外の肉牛生産の現状を理解する。 * 畜産経営診断の要点と指標について理解し、診断の基準と方法について学ぶ。 * 将来の経営設計の方法を理解し実際にでき、マーケティングの活用ができる。 * GAP農業生産管理工程について学ぶ。

備考

令和5年度

「農業経営」シラバス

沖縄県立八重山農林高等学校

教 科	農業	単位数	2単位
学 科	フードプロデュース科	学年・組	3学年 A T
使用教科書	農業経営 「実教出版」		
副教材			

「農業経営」とはこんな科目です（科目の概要と学習目標）

この科目は、農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理やマーケティングの必要性を理解させるとともに経営管理の改善を図る態度と能力を育てることを目的とします。

授業の進め方

* 授業形態

座学を中心に行い、自作プリントを活用して簿記の演習を行う。また、グループ別にパソコンなどを活用して地域の市場について情報を収集し、地域の農業の問題点を把握して改善点を発表する。

* 授業の際の心構え

地域の農業の特徴を理解し、知識の習得にとどまらず、自らが「農業経営者」であることを考えながら学習しましょう。

「農業経営」の評価の観点

評価の観点	内 容	評価方法
関心・意欲・態度	農業経営の設計と管理に意欲的に取り組んでいるか。また、経営管理の改善を図ろうとする態度を身につけているか。	出席状況、授業態度 身なり、記録簿
思考・判断・表現	農業経営の課題を考察し、経営管理の改善を図る能力を身につけているか。	授業中の質疑応答、 演習、
技能	農業経営の設計と管理に関する基本的技術を身につけているか。簿記の記帳が正しくできるか。	記録簿、
知識・理解	農業経営の設計と管理に関する基本的な知識を身につけているか。またコスト管理とマーケティングの必要性を理解しているか。	定期考査 (中間テスト、期末テスト)

以上の事項を総合的に判断し評価します。

【学習の計画（どのような内容をどの時期に学ぶのか）】

学期	学習項目	学習の内容・目標
1 学期	①農業の動向と農業経営 ②農業経営の組織と運営	* 人間生活にとっての農業の役割や自然の生態系や日本の食料の生産と消費の動向とその需給について理解する。 * 農業経営の目標の意義について学ぶ。 * 家族経営と会社経営の違いを考える。 * 農業の経営組織を理解する。 * HACCP や GAP の意義について学ぶ
2 学期	①農業経営と情報 ②農業経営の会計	* 環境に適応した農業の展開を考えることができる。 * 情報からみた経営活動を理解できる。 * 農業経営に必要な情報を収集できる。 * 簿記の意味や要素などを理解する。 * 複式簿記による、基本的な取引の記帳から決算までのしくみを学ぶ。 * 原価計算は、経営の内部活動の記録・計算に必要であることを理解する。
3 学期	①農業経営の診断	* 農業経営診断の要点と指標について理解する。 * 経営診断の基準と方法について学ぶ。 * 経営設計の方法を理解し実際にできる。 * マーケティングの活用ができる。

備考
